



## 1. 学域初の卒業生（2016年1月～6月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16367">http://hdl.handle.net/10466/16367</a>

## 1. 学域初の卒業生(2016年1月～6月)

1月20日

イベントや来客など大学の動きを個人的な見方で綴っていこうかと思ひ、facebook ページを始めました。

2016年の新年のあいさつをしたときの写真です。校章がきれいに写っています。ちなみにこの日に着用したスーツは人生で一番高価なものです。当日の話はこちらに掲載していただきました。

<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/president/shikiji/>



1月21日

年末多くのクリスマスカードを頂きました。少しでも多くの方に見ていただこうと部屋に飾っています。



1月23日

1月13日に学位記授与式がありました。いずれも長年働きながら研究を続けてこられ、今回、工学研究科で審査されたもので、博士(工学)になられました。写真では緊張されているように見えますが、式終了後はとてもにこやかな笑顔でした。これからのご活躍を祈念しています。

思い出してみると、私が学位を頂いたのが39歳。論文博士でした。働きながら学位を取得するには家族の応援も必要です。私の授与式には妻と長男が来てくれました。



1月24日

1月18日、タイの大学に勤務している橋本喜代太教授(元現代システム科学域教授)が訪問してくださりました。彼の大学では、カリキュラムポリシーにそって、講義科目が決まり、科目ごとに(我々の4倍くらいの長さの)シラバスを書く人がアサインされるそうです。そして、シラバスは(書いた人とは)別の人に審査され、そのシラバスの内容を講義できる教員は、シラバスを書いた人(のこともあれば、そう)ではなくて、募集されることもあるそうです。ちょっと調べてみると米国では一般的なやりかたみたいで、日本の大学のコースの組み方がガラバゴス化していると言われるのはこのあたりにあるのかもしれない。

こういうことの長短を議論するのは楽しいものです。



1月25日

1月7日、台南大学から交換留学で来日しているWu君が佐賀准教授と訪問してくれました（佐賀先生の学生は現在台南大学に交換留学中）。日本語が上手なので、「どうやって習ったのか」と聞いたところ。「テレビ」ということです。恐るべし、ドラエモンとワンピース。国内だけでなく、アジアの多くの若者に影響を与えています。



1月26日

OPU standard for bicycle parking.  
In the case that most riders park well-orderly, no one can have



mind to park unorderedly. This is typical example of social norm but we are still on the way to the goal.

1970年の万博以前、駅で吸い殻のポイ捨て、電車の割り込み乗車など当たり前だった。その後、皆が（海外の来客に対して恥ずかしくないように）エチケットを守るとなるとそのようなことはなくなった。社会的規範ができたのであろう。大学の駐輪問題。早朝に自転車を整理して下さる方がいて、なんとかなっているが、そんなお世話にならなくても皆が「さすが」と言われるような規範ができあがる日が来ることを願っている。

1月27日

去る22日、ダイバーシティ研究環境研究所のキックオフシンポジウムがありました。100人を超える参加者があり、基調講演、特別講演、パネルディスカッションがありました。



国の施策で女性研究者支援・養成事業があり、本学も採択されて、数値目標をもって取り組むところです。ただ、国内の女性研究者の総数が急に増えるわけではないので、数値だけにとらわれると大学間で人材の取り合いになるだけになりかねないので、ワークバランスで研究を断念したり、上位職を目指すことを断念したりすることがない環境を作り維持することが大切だと思っています。発表された先生方のご苦勞をお聞きすると、改善しなければならないこと、改善できることが多くありました。

理系の女性大学院生はIRISに参加して、いろいろなロールモデルを学んでほしいと願っています。

1月28日（学士会館）

公立大学協会の学長会議に参加してきました。公立大学の数は86校で、国立大学の数と一緒にです。学生数は一けた違います。文科省や総務省の方から大学に関連する行政の説明を受け、入試改革や、女性の職業生活や障がいのある学生支援について学んできました。

終了後は懇親会がありますが、前学長の奥野先生も顧問として出席されました。奥野先生のまわりには全国の学長が次から次へと話に見えて、笑いがとだえません。「先生元気そうですね」「先生生き生きとしていますね」と声をかけられて苦笑されていました。なんとなく嬉しい一コマでした。

#### 1月29日 記者懇談会@ I-Site なんば

去る27日、記者懇談会を行いました。昨年の7月に続き2回目です。今回は、「すべての人が活躍できる社会への貢献」ということで、山野先生、奥田先生、田間先生に研究のプレゼンテーションをして頂きました。

記者の方にはベテランの方も若い方もおられました。「大学の話を聞きたい」「大学の貢献を発信したい」と言っていたらとても嬉しいです。一方、大学側も記者の方々の視点を学んで、情報発信していこうと思います。お互いの関係が信頼関係に基づいた共生でありたいものです。

#### 1月30日 医療系交流会で挨拶(I-Site なんば)

真嶋先生(現代システム科学域)が交流会会長、中村先生(看護学研究科)が大会会長をされている、医療系eラーニング全国交流会がI-site なんばで開催され、冒頭で話をする機会を頂きました。

医工連携と最近言われるようになりましたが、このような会を10年も前から本学の先生方が中心になって取り組んでくださっていることを嬉しく思います。業者の展示も企画されており、学生さんたちも頑張っていたようです。



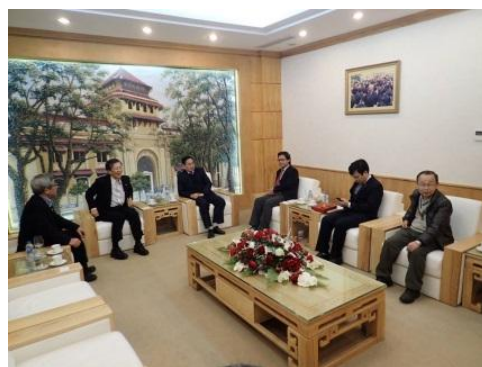
私はというと、日頃の疲れというのは理由になりませんが、ネクタイを締め忘れて出かけてしまい、一見、クールビズでの登壇になってしまいました。

#### 1月31日

##### I visited Vietnam National University.

学長になって初めての海外出張はハノイです。環境関係のプロジェクトでベトナム国家大学と共同研究している先生方に誘われてでかけました。あいにく学長(大臣です)は国会関係でお会いできませんでしたが、副学長の先生が日曜日にもかかわらず対応してくださり、今後のいろいろな可能性を意見交換できました。

お土産の雛人形も喜んで頂き、海鮮料理のレストランでの会食も楽しい時間をすごせました。本日はネクタイを持参していたのに、フライトではずし、そのまま会見にのぞんでしまいました。





2月1日 Best collaboration is never in the past but in the future.

本学とベトナム国家大学とは10年以上の繋がりがあります。何と言っても前田先生が四年間現地に住まれて化学を教えられるとともに環境維持のモデルを提案され、実際に取り組みられてきた成果です。

大塚先生、北宅先生、竹中先生だけでなく、多くの先生方、学生が研究をし、学んで来ています。その陰で多くの職員の方のサポートもあって続いています。今回の成果報告には50人ぐらいの方が参加されていました。挨拶の機会を得たので、さらなる継続があるような冒頭のメッセージを述べました。

2月2日

年末に府議会、年始に市議会で、府大・市大の中期目標の変更が議決され、大学統合の準備をすることを指示されました。大学教職員には学内の会議を通して、状況を報告してきたのですが、在学生の皆さんには、新聞やテレビの報道しかわからず、心配を与えてしまいました。学生団体連絡会が試験の終了後で懇話会の場を設けてくれた（主催）ので、丁寧に大学執行部の考えや状況を説明しようと思っています。気軽に多くの学生さんが集まってくれればと願っています。

日時：2月10日（水）14:00-

場所：A15棟101教室 ※羽曳野キャンパス、りんくうキャンパスは遠隔中継

対象：本学の学生

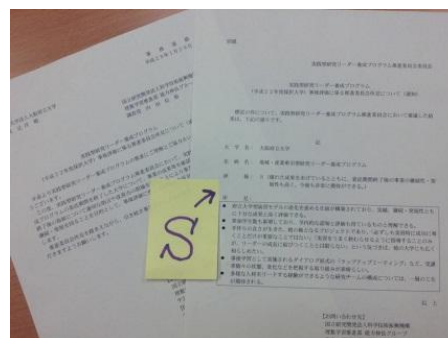
2月3日（大阪市 KKR ホテル大阪）

大阪工研協会の新春講演会に招かれて、「法人化10年と大学改革の取り組み」と題した話をしてきました。大阪城の見える見晴らしのよいところでした。100人ぐらいの企業幹部らの出席があり、産学連携の取り組みやリーディング大学院、木(も)っと府大など紹介してきました。

名刺交換も50名近くの方と行いました。府立大学OBという方がおられたり、府立大学の先生と共同研究をして新聞に掲載されたと見せて下さる方がおられたり、いろいろな繋がりを感じることができました。「世界に翔く地域の信頼拠点」として認知されるようになっていきたいと改めて思いました。

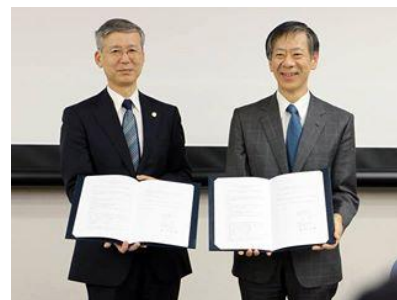
2月4日

嬉しい知らせです。人材育成センターの教職員の皆様が努力してくださった文科省支援の府大プログラム「地域・産業牽引型研究リーダー養成プログラム」が最優秀のS評価を受けました。中間評価もSでした。もちろん、プログラムに参加した学生さんの努力にも敬意です。世界に翔く地域の信頼拠点を証のひとつになると思います。



## 2月5日 和歌山県立医科大学と産学官連携協定

昨日、協定を締結しました。締結式には、テレビ局も含め多数のプレスが取材に来てくれました。「垣根のない大学でつながりを」というアクションがまた一つできました。



## 2月6日

台南大学とは10年以上交流している。交流協定も締結して、交換留学生を派遣したり、受け入れたり、一緒に会議を企画したり、論文を書いたり。今も府大に一名が来ている。今朝、大地震に襲われたとのニュース。皆さん無事であってほしい。きっと、私だけでなく、大学の関係者一同、交流した卒業生、皆同じ気持ちだと思う。



## 2月7日

一般入試（前期・中期・後期）の願書の受付が終了しました。1,130人の定員に対して、8,439人の応募がありました。受験世代の人口が減っている中、多くの方々に本学の入学を希望していただけることを嬉しく思います。受験者全員、体調を整えて当日を迎えてほしいと願っています。

思い起こせば4年前に学士課程の大改革を行い、現代システム科学域という文理融合教育などを開始したとき、「本当に受験生は来てくれるのだろうか」とすごく心配しました。夢の中に「応募者0人」とか出てきて、多分、このときの心配（プレッシャ）は誰もが想像する以上のものでした。

## 2月8日（東京都 明治記念館）

今週は大阪府立大学東京同窓会に出席します。いつも大学をご支援いただき、感謝です。卒業3年未満の方は懇親会費無料になっていることもあってか、若い人の参加が徐々に増えているようです。幹事の皆さま、よろしくお祈りします。

- 開催日時 平成28年2月11日（木・祝） 12時30分 受付開始
- 会場 明治記念館（東京都港区元赤坂2-2-3）
- 新春講演会 「地方創生とコミュニティデザイン  
～人のつながりを生み出すデザインの仕事について～  
(株)Studio-L 代表 山崎亮（平成11年農学部修卒）

## 2月9日（和歌山大学）

去る4日、COC+とよぶ地方創生推進プログラムを連携している和歌山大学を訪問し、瀧学長と懇談しました。その記念として、和歌山大学（略称：和太）に住みつくネコをモチーフとしたキャラクター「ワダニャン」を頂きました。地域密着の象徴として「みかん」をかぶっています。キメ台詞ももっていて「落ちつくわ〜」。



COC+以外でも「つながり」を構築していきます。世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。

2月10日

本日、学生団体連絡会の皆様のアレンジで府大・市大の大学統合に関する懇話会を開催しました。会場には市大の学生さんを含め77名の参加がありました。学生さんの生の声を聴けたのは良かったと思いますし、私の生の声を伝えられたのも良かったと思います。

学生さんの不安の声に対して、とても十分な回答にはなっていないと思いますが、自分の考え方、大学執行部の考え方、まだまだ決まっていないことが多いけど長期的に大阪の公立大学のあるべき姿を求めたいと思っていること、次の中期計画(H29~H34)で統合を目指すよう議会から指示されたこと、などが伝わったかなと思っています。

まだまだ長い道のりです。長期的に広角的に根本的にものごとを視て考え行動していくこと、ゴールを決めつけず、しなやかに対応することが大切だと思っています。

2月11日

文科省に採択されたアントレプレナー育成教育のシンポジウムの案内です。アントレプレナーシップは「気付きを得る力」で同じ授業をきいても、同じ本を読んでも、同じ観光をしても、何かに気づく力の有無があり、その力をつける教育ができればいいなあと思っています。

日時 2016年3月3日 15:00から17:45(第2部)

於：グランフロント大阪北館4F

「大阪にベンチャー企業が生まれ、成長する熱帯雨林を造る」



2月12日 課程配属について

H24年の学士課程改革で、学類の中に課程を複数設け、入試は学類単位、入学後に課程を選択するカリキュラムを目指した。受験生にとって、高校時代から何がやりたい(課程)のかを明確にするのは必ずしも容易ではないと考え、入学後、大学の授業を聞いたり、先輩の話を聞いたりしてやりたいこと(課程)を選択してほしいと考えたためだ。

過去の合格最低点の偏差値で自分の将来(課程)を決めることがないようにしてほしい。学類の中のどの課程が就職に有利とか不利とかはない。どこの課程にも大切に面白い研究テーマがある。しっかりと自分が何をしたいのか、何ができるのか、何を学ぶべきかを考えて、課程を選んでほしい。一方で、学士課程改革で目指したようにカリキュラムができていないかもしれない。これは大学側、教員側も反省して見直していかなければ、ならない。

学生さんたちは、「人気がある」ということだけで課程を選ぶと将来悔いることになりかねない。ときに、課程配属結果で、「勝ち組」「負け組」などという話があるという噂を聞くととても悲しくまた(自分たちの力不足を)情けなく思う。

## 2月13日 高額寄付者へのお礼

去る11日に、なにわ大学（府大の前身）の卒業生（T氏）に会って感謝状を渡してきました。

T氏は12才でご尊父をなくされ、勉学の希望があったにもかかわらず、進学をあきらめ、大阪の工場で働き始められたそうです。しかし、どうしても勉学の夢を叶えたくて、働きながら、府大の前身のなにわ大学の2部（夜間）に進学され、卒業されました。熱心に教育してくださる先生がおられたそうです。

卒業後、航技研（今はJAXAの一部になっている）で航空機関連の研究をされすでにだいぶ前に引退されています。その後は、奥様とクルージングなどを楽しまれて見えたようですが、T氏は大学のことを強く覚えて下さっていて、今回、府大の教育・研究・地域貢献の支援にと多額のご寄付をして頂きました。

府大の航空関係のトピックスとして、小型ジェット機MRJのチーフエンジニアの岸氏が府大のOBであることや、昨年7年ぶりに鳥人間コンテストで優勝したことをお話すると、とても喜んでいただけました。

60年ぐらい前のことでしょうか。学びたい人がいて、教えた人がいた。そういうキャンパスで教育がなされていた。学んだ人がいつまでもキャンパスのことを覚えてくれている。今後もそういう大学でありたいと思います。

## 2月14日（東京都 明治記念館）

去る11日、東京同窓会に出席してきました（毎年この日と決まっています）。例年より参加者は少し多かったそうです。大阪府立女子大や看護大学の卒業生も来てくださり、賑やかな会でした。若い方の参加者も増えてきています。

思えば、この一年、名古屋同窓会、岡山同窓会、広島同窓会、斐文会、白鳥会、学友会などお誘いを受けられただけ出席してきました。卒業生の皆様に大学の様子をお伝えし、元気をつけて頂くようにし、また、卒業生のご活躍をお聞きすることにより元気を頂くようにして、「垣根のない大学でつながりを」を目指しています。



## 2月15日 卒論・修論発表

大学は卒論・修論の発表の季節。学生さんも指導している教員のみなさんも準備で大変であるとともに（個々の学生さんが何を独創的に考えたのか）頭を整理するいいタイミング（区切り）なのだと思う。こういう場に最後に出席したのは3年前。教育の現場から離れたことをすごく寂しくまた残念に思うこの頃である。

たまたま自分が修論発表の練習をしている写真を見つけたので、40年前の様子を思い出した。当時はまだワープロもプロジェクトもないので、模造紙に手書き（マジックペン）で発表していた。



今見ると不親切な独りよがりの記載だと恥ずかしくなる。ポインタではなく指示棒を使っている。右下に灰皿が写っているの、教員か先輩かわからないが喫煙しながら指導してくれたのだろう。今では考えられない光景だ。発表では、「どこにオリジナリティがあるのだ」と聞かれたことだけ覚えている。どう応えたのかは記憶にない。



20年少し前の学位審査の公聴会ではOHPシートを使って発表した。自分の研究は他の人の研究とどう違うかの表現に腐心した。この先、20年後、40年後の発表スタイルはどうなるのだろうか？スタイルが変わってもオリジナリティをうまく主張する大切さは変わらない。

2月16日

Do you have "influencer" and "influencee"? Who are they for you? How can you explain them?

**Influencer** := somebody who has positively changed the way you think

**Influencee** := somebody who you changed their way of thinking

あまり使わないかもしれない。ひょっとすると全くの造語かもしれない。米国の友人が使ったので覚えている。自分の発想の仕方は、ときに恩師に時に昔の上司に、そしてあるときは友人の影響を受けている。強くそう思うことがある。たぶん事情を知っている人にはそれがわかると思う。逆に自分の教え子が自分の発想の仕方に似てきたなあと思うこともある。それが嬉しい時もあるし、そうでもないこともある。

民間の研究者から大学の教員に転職したのは、前の職場に **influencer** も **influencee** もいなくなったと感じたからかもしれない。今頃になってそのように感じる。大学というのは **influencer** も **influencee** もいっぱいいる。そういう「場」だと思う。

2月17日

To promote cutting-edge research for global age, OPU accepts international students and encourages OPU students to go abroad.

理学研究科分子科学専攻の台湾からの留学生(D3)とフランスからの留学生(D2)との面会を企画していたところ、ちょうど、台湾での交換留学から帰国した府大生(M1)とさらに台湾から府大に来日した交換留学生(M1)がいたので指導の先生ともどもランチミーティングした。

府大の理念は「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点」。多くの留学生が府大を選んでくれると嬉しいし、多くの府大生が海外生活を経験してくれると嬉しい。そして、その経験を聞くと楽しい。学生さんの意欲、指導の先生に感謝。

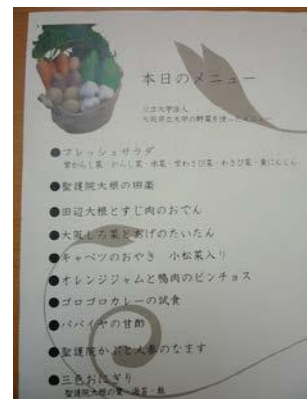


## 2月18日 大阪産（もん）の食品加工による地域振興

大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）と本学の連携セミナーがあった。六次産業とって、農業（一次）、工業（二次）、商業（三次）の連携（足し算？）で新しい地域振興を考えるものだ。この種の異分野融合は本学が得意とするところだ（垣根のない大学でつながりを）。

100人近くの多様な方が集まり、試食もした。発表の中に、学生さんの活躍も紹介された。コーディネータの努力もある。ものづくり、ことづくり、まちづくりが最後はひとつづくり。

世界に翔く地域の信頼拠点。大学や公設研だけでは決してできないことが、行政、企業、住民とのつながりをつくることで出来つつある。そう感じる。



## 2月19日 体用不二（たいゆうふじ）

学生時代は数理工学を専攻し、システム科学を学んだ。指導していただいた榎木義一教授の勧めもあり、日立製作所に入った。システム開発研究所という事業所に配属になったが、その所長は制御コンピュータで著名な三浦武雄博士。ともかく厳しい人だった。

<http://museum.ipsj.or.jp/pioneer/miura.html>

三浦所長が大切にされていた言葉が「体用不二」。ググっても日本語サイトにはすぐ見当たらない。体（ハードウェア）と用（ソフトウェア）は分けられないということだろう。一般にシステム科学者は要素に分けること、そして、要素間の関連を作ることに関心をもつ。その一方で「分けたくない」ということにもこだわる。

「体用不二」は本学で育成を目指している「モノづくりとコトづくりの両方を考えられる産業界リーダー」には、ぜひ知っておいてほしい言葉だ。



## 2月20日 父が船長で名前が「洋」

As my father was a captain, he named me "Ocean." The term "Captain" reminds me of the concept of Cybernetics which relates my research domain.

私事ながら、昨年末、父が天寿を全うした。遺品の整理をしていたら得意そうにしている写真があった。若いころタンカーの船長をしていて、そこから私の名前が「洋」になったそうだ。同級生で「洋」というのに聞いてみると何人か「父親が船長」というのがいた。

制御理論を学んだ時にサイバネティクスという言葉を知った。これは人間と機械の調和というようなもので、揺れ（振動＝これが実は深い）がある中で人間と機械が調和するための学問だ。舵手という意味でもあるがたぶん荒波の中で船を目的地に向かって動かすには人間と機械が調和する必要があるということだろう。この「サイバ」は、「サイボーグ」や「サイバースペース」にも使われている。大学に赴任して学生3人と行った学会は、2003年10月にワシントンで開催された

IEEE/SMC (System, Man and Cybernetics)だった。あのときの学生さんは受付も手伝い頑張ってくれた。今でも昨日のことに覚えている。

2月21日

One month has already passed since this page opened. I would like to (1) continue to write message every day, and (2) include short message in English.

このFACEBOOK ページを始めてから一か月経った。できるだけ毎日短くても発信しよう、また、短くても英語も入れようと思っている。

今の職位になってから、カメラの前で話したり、録音しているマイクの前で話したりする機会が増え、ときに表現に失敗することがあったり、編集によって意図と違う記録にされたりする経験をしてきた。こういうページを書くのはこういう失敗を少しでもしないような練習にもなっているような気がする。



2月22 33歳で初めて渡航

I was a visiting researcher of CMU in 1987-1988.

英語は得意ではないし、どちらかというと苦手だ。それもあってか、海外に出たのは33歳が初めて。上司の「お前には海外を見せてやりたい」という配慮があり、9か月単身で米国ペンシルベニア州のピッツバーグにあるカーネギメロン大学に滞在した。

滞在したのは機械翻訳のセンターだったが、テーマとしては機械学習の基礎を学んだ。論文を一つ書けたがほとんど研究成果は出なかった（実は後年思わぬ転用ができたがこれについては別途書きたい）。同大学に「道場破り」という形でセミナー（自己主張）に来る研究者が多数いたこと、彼らの講演に対して厳しい（ある意味素朴な「なぜ」という）質問の嵐を降らせる研究者も多数いたこと、現地の英語は自分に知っている英語と全く違ったことなどが強烈な記憶として残った（他にもいっぱい気づきを得た）。

上司から機会を得たように、後輩（今の立場では若手教職員、学生）に海外滞在の機会を少しでも与える、この滞在でこのように決意した。（最近、なにごととも忘れっぽくなっているが）この決意は今でもそして今後も忘れることはない。

2月23日

I have plan to visit TNI (Thai-Nichi Institute of Technology) in Thailand on March 15 where I visited in 2012.

タイ・バンコクに日系企業が出資して設立した泰日工業大学というのがある。工業の専門科目と日本語を教育して、日系の工場のリーダーを養成する学校で、多くの日本の大学とも交流している。





2012年訪問して、集中講義する機会を得た。多くの学生が熱心に聞いてくれて全員と記念撮影もした。その後、同大学の二人の教員が本学に留学して学位をとった。さらに、2014年から、



堺市の中小企業が彼らを長期インターンシップ生として受け入れてくれるようになり、泰日工業大学一堺市の中小企業一府大というトライアングルのつながりができた。高専ともつながっている。今年も二人来日予定だ。去年は逆に府大生も交換留学している。世界に翔く地域の信頼拠点の証の一つとしてこういう交流モデルを拡大したい。3月に訪問して Next Step を議論してくる。

## 2月24日 リーダシップとアントレプレナーシップ

これら二つの人間力というのは、教育により身につけることができるのだろうか？リーダシップなら、体育系・文化系にかかわらずクラブ活動で代表や幹部をするほうが身につくのではないだろうか？教育は純粋なものでビジネスマインドを教育するものとは違うのではないか？いろいろな疑問があって当然だし、議論するに値するテーマだ。私は教育すべきテーマだと思っている。

後者のアントレプレナーシップについては、文科省の支援を受けて、教育プログラム（愛称：FLEDGE）を行っている。"Fledge"には『羽毛が生えそろう；巣立ちができる』、"ledge"は『足を掛けるのに都合のよい、靴の大きさ以上の広さがある部分』という意味で、これらを掛け合わせて、『リスクはあるが、岩棚から大空へ飛び立つ夢を持つ人材に羽を与える』という思いを込めている。

まさに「世界に翔く地域の信頼拠点」にふさわしいと自負している。このプログラムは、在学生だけでなく、教職員、OBさらには一般の方も受講可能だ。3月3日、グランフロントでシンポジウムを開催する。春休み中だが、学生さん多くの方に出席いただきたい。何か気づきを得ると思う。

## 2月25日

I carved ownership stamp when I was an elementary school student. I still love it.

仕事とはあまり関係ないが、自慢の蔵書印を紹介したい。小学校の時に作った。今でも使っている。糸車（最近でもあるのだろうか？）が持ち手になっていて、薄い板に彫刻刀で彫った。

（そういえば、当時は年賀状も彫っていた）

キツツキが木をつつくように、自分も本をつつこうと思ってデザインした覚えがある。蔵書印を押したいがために本を読んでいたかもしれない。まさか50年以上も使い続けるとは思っていなかったし、50年後に本の電子化が進むとも思わなかった。世の中には、変わるものと変わらないものがある。最近、よくそういうことを考える。





2月26日 研究室OB来訪：水曜日（S君）と金曜日（K君）

S君はマテリアル工学科に入学したのに2回生のころからなぜか私の（知能情報工学科）の研究室に出入りしていた。博士前期課程になって、正式に私の研究室所属になったが、M1でフランスEISTIに一年間交換留学に出て、さらにM2でも米国にインターンシップに出かけた。修論テーマも（私の言うことを聞かず）自分で設定したのであまり（研究の）指導をした覚えはない。

K君は鉄道が好きで博士前期課程で台湾台南大学に一年交換留学した。台湾鉄道の旅を満喫しつつ、留学期間中の成果をその大学の先生と学術誌論文にまとめた。（府大での実験ではなく）留学中の研究をもとに修論を書いたので、こちら（研究の）指導をしたとは言えない。

研究の指導の時間は短かったかもしれないが、世界に翔きたいという彼らの背中を押すことはできた。Influencerとinfluenceeの関係だ。だから、時間を作って会いに来てくれるのだと思う。たまたま、今週の二人が交換留学に出た学生であったが、「世界に翔く」というのは「海外に出かける」ことではない。大学生時代に得た知識をもって社会に出て使う、ということだ。教員をやっていると、卒業生が来てくれて近況を話してくれるのは嬉しい。

逆に学生の指導をできなくなった今の立場を寂しく思う。教育をしている教員を見ていると羨ましく思う。そして、こういう思いをしている人が私だけでないことも知っている。

2月27日 "You are not alone."

TO OPU international students.

Thank you for coming OPU. How are you doing? OPU hopes most of you are enjoying campus life and everything goes well for you. On the other hand, OPU may not have notice that someone has serious trouble in their Japanese life or in their study. Some may have language trouble and others may have culture problems. We are very sorry if we could not take care of them.

When I was in trouble, I received a message "You are not alone." This message is true not only for me but also for everyone. I think so. If you have any problem and do not know how to handle it, please feel free to send e-mail to me (tsuji@osakafu-u.ac.jp). In order to fix it, I will introduce a right person to you. Of course OPU will keep your privacy. This is our duty.

2月28日 メリハリ

"Keep pace" or "vary pace". Which is better to get good performance? Japanese maxim "Merihari wo tsukeru" teaches that one should sometimes work hard and play hard on another occasion.

昔、先輩に「あるときは月月火水木金金、またあるときは日日水金土土土で研究するのがいい」と言われたことがある。メリハリをつけるということだろう。ふとこの言葉を思い出したが、「メリハリ」って、どんな漢字を書くのかわからないので調べてみた。「減り張り」と書くそう。

もっと調べると「メリハリ」は、邦楽用語である「メリカリ」が転じた言葉で、微調整して音を低める「減り（めり）」、高める「上り・甲（かり）」から「音声を緩めることと張り上げること」を意味するらしい。

では、英語では何というのだろうか？「メリハリ」というのは研究だけでなくいろいろな場面で使うのでなかなか難しい。仕事に集中したりリフレッシュしたりということだけでなく、デザインにメリハリをつけるとか、投資にメリハリをつけるとかある。確かに統一的な英訳はなさそうだ。

こんなことを考えていたら、「集中」ってどんなことだろうと疑問に感じた。これも少し調べると、いろいろ面白いことが分かってきた。ResearchはRe-searchと言われるが、日頃から知っていると思っていることを再度調べていくのは楽しい。

2月29日 4月3日(日)は花(さくら)まつり



Our Sakura-Matsuri festival will be held on April, 3rd, Sunday this year. Nikkei newspaper evaluated our Nakamozu Campus as the 2nd beautiful place on cherry blossom with pond surface among Japanese universities.

26日の日経新聞に「大学のさくら咲く名所歩きたい」という特集があり、本学の中百舌鳥キャンパスが2位にランクされていた。府大池の水面(みなも)に映る迫力についても記載されていた。

た。

今年も4月3日(日)に花(さくら)まつりを開催することになっている。もう第7回になる。ナイチャービューセミナーや学生団体のブース企画やパフォーマンスもある。協定締結自治体からも参加いただける予定だ。



新入生には特に保護者の方と一緒に、そして在生も教職員もOBや近隣の方々もご家族ともどもこの桜を楽しんでほしい。桜を楽しむ心を持ち続けたい。また学内の自然を満喫しながら、地域の環境や魅力づくりを考えてほしい。(写真は私が2010年4月5日に撮影したもの)



3月1日 しなやかに、したたかに

私の恩師の榎木義一先生は、私が4回生で配属になったときに58歳。今の私より若かったことになる。(しかし、今の私より)すごく威厳があって、出張や来客が多く、研究室では言葉一つ交わすことができなかつた。私だけでなく、他の学生にとっても近づきがたい存在だった。(間違いなく、卒業してから指導を受けたことのほうが多かつた)

もともと航空工学専門で振動や制御の研究をされていて、私が在学中は、システム科学者。「これからのシステムわなあ、しなやかに!したたかに!だよ」(たぶん、映画のタイトルからきている)。(助教授の先生についていたので榎木先生から)直接指導を受けることがなかつたのに、このフレーズだけはなぜか覚えている。ときに「システム」がほかの単語に代わること(これからの〇〇 わなあ、・・・)もあつたようだ。

何か厳しい揺れ(いやなこと)があつてもそれで壊れる(切れる)ことがなく、なびけるところは「しなやかに」なびいて、でも、抑えるところは「したたかに」抑える。一つの人生観というか研究感を学んだのだと思う。恩師への感謝というのは、学生時代に専門の最先端を教えてくれたことばかりではないとも思う。しなやかに、したたかに。

3月2日 就職活動が解禁

昨日(3月1日)から、企業の募集告示が始まつた。キャリアサポート室では、2月後半より個人面談の申し込みが増えており、連日予約がいっぱいとなっているらしい。

相談に来た学生や、ワークショップに参加した学生の多くは、解禁日午前0時がプレエントリー(ナビシステムで希望の会社にチェックをつけて申し込みをする。)し、中には朝5時までやっていたという。そのためか、サーバーも一時つながりにくい状態になっていたようだ。私の時は、大学の推薦をもらえるかどうかで就職先が決まっていたので、様子は全く違う。

サポート室の横山室長によると、キャリアを考えるのは自分の生きざまを考えることだ。これからは先輩たちが大学に戻ってきてくれて会社紹介や仕事紹介などをしてくれるだろう。相談事があつたら、遠慮なく、キャリアサポート室を訪問してほしいし、先輩や指導教員の話もよく聞いてほしい。ちょっとした準備で大きく成長する機会だ。(先輩の皆様におかれては、後輩に話をしに来てほしい)

3月3日 Best collaboration is never in the past but in the future.



We have signing ceremony of the academic exchange agreement with the University of New Mexico.

1年半前から文科省の支援を受けたアントレプレナー教育で、ニューメキシコ大学に本学の教職員、学生を派遣して研修をしてもらっている。今回、学長、工学部長他が来日されたので、本学にも立ち寄っていただいた。

文科省の支援がなくなつてもこの派遣プログラムを続けたいと思っているので、先方からも学生を受け入れ、相互がメリットのあるような形を作っていきたい。今回その方向を同意する確認ができた。5月にも別の教員が府大に来てくださることになった。着

実に米国の大学との交流ベストプラクティスを作っていきたい。関係者の準備に感謝したい。(恒例で天橋立の話をした)

3月4日(グランフロント大阪) 同時通訳

ひな祭りの昨日、アントレプレナー教育 FLEDGE のシンポジウムをグランフロントで開催した。本学が主催だが、ニューメキシコ大学にも共催者として総長、学部長らに参加いただいた。その講演やパネル討論の内容も面白い話がいっぱいで感じることも多く、ぜひとも書きたいのだが、今回同時通訳のサービスが提供され、その質の高さに驚いたので、先にこちらに触れてみたい。

同時通訳をはじめて知ったのはアポロが月面に着陸した1970年のテレビ生放送の時だ。「すべてGOであります」というセリフが今でも脳裏に残っている。(たぶん)二人がペアになっているのだと思われるが、交互に英語から日本語に意識していくすごさに圧倒された。ただ、このときの同時通訳者は英語から日本語に訳す一方向だった。

昨日の場合、日本人が話す場合はそれを英語に、ニューメキシコ大学の人が話す場合は英語を日本語に、即座に訳す双方向だ。英語で話す人と日本語で話す人が混ざっているパネル討論の時など司会者がどう話を向けるかわからないにも関わらず、発言を予測しているかのように訳す。話を通じるように補足もしているように思われた。

自分の場合、たとえば、日本語を聞いて、同時にそれを復唱することができるだろうか?一瞬たりとも他のことを考えたらできなくなるはずだ。同時通訳中はすごい集中力なのだろう。エキスパートというのはすごい。改めてそう感じる一日だった。

3月5日 祝留学生同士の結婚

先日、この3月で卒業してパリに行くというJ君とSさんが訪問してくれた。J君はフランスの大学院大学 EISTI から交換留学で来日。その後、EISTI を修了し、本学の理学研究科でドクターコースに入学。Sさんは中国瀋陽の東北国際育才学校(中高一貫の進学校)を卒業後来日し、京都の留学生向け予備校を経て、本学の現代システム科学域に入学。

私は EISTI には(パリに行ってみようという動機から)2005年に初めて訪問し、その後、毎年、国際会議の帰路などに立ち寄り、留学の勧誘に行っていた。留学生を増やすにはそこまでしないと増えないという信念のもとだ。調べてみると2008年訪問時の写真にJ君も写っている。

一方、中国の育才学校には2008年訪問し校長に面会するとともに教室だけでなく寮の部屋まで見せていただいた。全寮制で生徒たちはベッドをきれいに片づけており寝の厳しさがすぐわかった。瀋陽にある中国東北大学から以前国費留学生を受け入れており、彼を訪問する機会があり、その合間にこの学校を訪問した。この学校から日本の国公立大学に多くの生徒が入学しているので興味をもつとともに府大にさらに来てほしいと思ったからだ。日本の留学生向け予備校と連携していることがわかり、2011年府大の入試説明に行った。これぐらいしないと留学生を増やすことができないと思っている。今回、聞いてみると、その場にSさんがいたらしい。





海外の学校を訪問し、府大の紹介をしてつながりを創る。こういう発想はカーネギメロン大学滞  
在時に身に着けたように思う。一步踏み込むことで何かが起こる。いろいろなことを思い出す  
が、彼らが訪問して「卒業する、結婚する」と報告してくれたことはとても嬉しかった。

3月6日 「OPU-Net翔」

We have alumni association, but there are still lots of discussion issue for activating relations among alumni.

この3月に学域・学類に教育課程を改革して初めての卒業生ができるが、同窓会の運営にもまた一  
つの工夫が必要なきにしている。大学も支援するし、既存の同窓会も間違いなく支援してくれ  
るので、新たな卒業生の中においても、それぞれの状況に応じて議論してほしい。

私からのお願いは、卒業時に、「OPU-Net翔」に登録して、大学からのメルマガを受け取  
るなど繋がりを持つことだ。簡単な手続きなので忘れないうちにしてほしい。まずはこれだけを強  
くお願いしたい。これを活用するかどうか、価値の高いものにするかどうかはこれからだが、まず  
は登録だ。周りにも声をかけてほしい。（ちなみに卒業生だけでなくて在生も登録できる）

<http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp/tsunagaru/opu-net/>

少し長くなるが、校友会について概略を紹介しよう。

大阪府立大学は130年を超える長い歴史をもっていて、その間にいろいろな学校や研究所を統合  
し、教育課程の統廃合や改革を行った。それぞれの時代にそのときにふさわしい個別の同窓会組織  
（単位同窓会と呼ばれる）があったが、現在、その連合体として校友会がある。単位同窓会ではな  
く、大学として卒業生と繋がりを保とうということだ。大きな経緯は次の通り。

<https://www.opucr.osakafu-u.ac.jp/>

（1）平成20年ごろ、大学全体として卒業生との関係を見直し、「卒業生は大学運営の重要なス  
テークホルダーである」との認識に立ち、これまで希薄で会った大学と卒業生を結び付ける「卒業  
生ネットワーク」の構築に向け検討を開始。

（2）その検討の中で、「卒業生名簿管理システムの整備」、「卒業生に加えて、在生、教職  
員（退職者を含む）など広く大学関係者で組織する校友会への発展的移行」について議論。

（3）平成21年9月、第1回大阪府立大学校友会理事会・評議員会を開催し、正式に大阪府立大  
学校友会としてスタート。

本日この校友会理事会・評議員会があった。遠路、東京、名古屋、岡山、広島からの参加もあり、  
今後のことを気にかけていただいている。関係者が一人でも多くで継続して議論していかないと、  
抱えている課題は大きくなりかねない。

3月7日 「やっちゃえ OPU」

Which is more important for developing the future car, hardware or software?

私が就職するころ、コンピュータの研究において、ハードウェア偏重からソフトウェア重視にか  
わるところだった。多くの古い研究者は、成果は重さで決まるので、ソフトウェアのような重さの  
ないものは価値がないと言い切っている時代だ。（当時は、重い大きなコンピュータほど価値があ  
る（高級）と信じている人が多かった）

先日、アントレプレナー教育 FLEDGE のシンポジウムで、日産の志賀副会長のお話を聞く機会  
を得た。自動車開発もハードウェア重視からソフトウェア重視の時代になったということだ。自動

運転とか安全性などは車内外のソフトウェアをどう組み立てるかだ。自動車メーカーがソフトウェアを頑張るか、(Googleのような)ソフトウェア会社がハードウェアにまで入り込むか、そういう競争の時代になっている。

ものづくりの発想だけではなく、ことづくり。ことづくりの発想には、ものづくりの現実。これら両面の見識がいる。改めてそのように感じた。

グダグダ書いてしまったが、志賀さんの話は「やっちゃえ NISSAN」そして、「やっちゃえ関西」「やっちゃえ OPU」。明快なエールを頂いた。世界に翔く地域の信頼拠点を目指そう。

3月8日 個人の交流から組織間の交流へ

I have plan to go to Cambodia and Thailand. On March 14th, I will visit Royal University of Phnom Penh. On March 15th, I will visit SIIT in Thammasat University, Faculty of Nursing in Mahidol University and Tainichi Institute of Technology.

来週、カンボジアとタイを訪問する。王立プノンペン大学ではこれまでに府大に来た教員、学生が歓迎してくれるそうだ。ここの交流については別途書きたい。

タイではまず SIIT を訪問する。タマサード大学の敷地内にある情報系の大学で、現在タイ在住の橋本喜代太先生(元現代システム科学域)らが中心になって交流している。この大学からも職員、学生が本学に来ているし、研究交流もしている。次にマヒドン大学シリラート校の看護学部を訪問する。志田先生らが交流を深められてこられ、今年は府大から2名訪問する予定だという。最後に大学だけでなく高専も交流している泰日工業大学を訪問。今年3回目のインターンシップ生を受け入れることが決まっており、その学生たちにも会える予定。

交流を、個人の交流(Person-to-Person)から組織間の交流(Organization-to-Organization)にすることが大切だと思っている。垣根のない大学でつながりを。これを実践していきたい。

3月9日

課程修了の学位記は3月24日に執り行われますが、論文博士は別に授与しています。本日(3月9日)理学研究科のお二人に授与しました。笑顔がとても印象的でした。

指導教員の馬野先生にお聞きしたところ、お二人とも大変ご苦労されたそうです。

先生もご苦労されたのだと推察します。研究というものの難しさを改めて思い知りました。長い目で見ると「実験がはじめからずっとうまくいって、ずっと論文が採択になり、学位論文になる」というのはいいことかどうか分かりませんね。私はそのように思います。研究にも「運」がある。きっと、「コツコツ努力する」というのが近道で、その積分結果が実力になっていくのではないかと。もちろん、短縮修了とか短時間で大きな成果を出すことを否定するものではありません。

「しなやかにしたたかに」そして「メリハリをつけて」。修了者のお二人には、今後のさらなる発展を期待したいと思います。



3月10日 体育会執行部



「役員が交代するのであいさつに来てくれる」と言う。折角なので私の部屋でランチ（お弁当）に誘った。当然、泥だらけのズック、ジーパンで来ると思っていたらなんと全員スーツ。慌てて自分も上着を着た。

私からのお願いは、（出場者全員が）

（1）複数競技がある首都大戦などでは、自分の競技でプレーだけでなくほかの競技にも（最低一種目は）応援に行こうよ！

（2）開会式でしっかり学生歌を歌えるようにしてよ！

少し情けないようお願いだけど、笑いながら応援団かのように話した。

彼らに「何か大学にお願いはないの？」と聞いてもなかなか出てこない。何か緊張している。川渕さん（首都大学東京理事長、日本サッカー協会キャプテン）の話になったときに「人工芝！」。いくらするのだろうか？「じゃあボードに書いてみよう。ふるさと

納税を集めようか」という話になった。マネジメント学類で会計学を勉強する委員長に10年計画を立ててもらうことにした。

来てくれてありがとう。また（計画ができたときに）来てくれるといいけど。

3月11日 被災地へメッセージ

私たちは3月11日を忘れない。昨年末だが広報から次の連絡が来た。OPU for 3.11の皆さんに声をかけたところ一緒にメッセージに書いてくれた。送ったところすぐお礼の電話まで頂いた。被災地の皆様のご苦労などとてもわかっていないのだけれど、そして、気持ちだけ、ほんの気持ちだけかもしれないが。私たちは3月11日を忘れない。



大学Webサイトに開設している問合せフォームに、「被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！」プロジェクト代表の中央大学名誉教授 田中拓男氏から学長あてに被災地の子どもたちに向けたメッセージをクリスマスカードとしていただけないかとの依頼が来ています。

全国から届いた他のカードと一緒に、VIPカードの一つとして福島市の児童館「こむこむ」に展示されるそうです。

カードの様式は何でも構わないようで、先生の署名とメッセージが一言あれば良いようです。

3月12日 ダイバーシティ研究環境研究所のロゴマーク

女性研究者リーダー育成と上位職支援等を重点課題として実施することで、女性研究者の研究力を向上させ、パーソナル・ポート







フォリオ作成やコーディネーター・メンター・URA 連携体制等、支援体制の開発・評価・改善と確立をめざす研究所を設立した。その研究所のロゴを公募していたところ多数の応募があり、今回採用を決定するとともに表彰をした。「おめでとうございます。ありがとうございます」

ロゴ（ギリシャ語で言葉）というのにはロゴタイプとロゴマークがある。ロゴタイプは図案化・装飾化された文字であり、一方ロゴタイプとマークを一体化したものがロゴマークということだ。アイデンティティをもつためによく使われる。

今回のロゴは Diversity の D を府大カラーと銀杏カラーと女性のカラーをデザインされたもの。蝶が世界に翔いていくように見えるのは私だけだろうか？

3月13日 未知を知って「満ちていく」あなたの世界

大学のあちこちに学生広報誌「ミチテイク」がおいてある。気づいたらぜひ読んでほしい。この編集チームの学生が法人の広報課と共同で取材・執筆するのが Web マガジン MichiTake+。なかなか洒落た名前だ。<http://michitake.osakafu-u.ac.jp/>

最近、堀場製作所の本学 OB 中村博司さんの記事がでた。昨年ニュースを賑わしたフォルクスワーゲンの排ガス問題の発覚に一役をかった車載型計測器の開発にも携われたということで、環境の府大としては嬉しい話だった。

ちなみに堀場製作所の創業者のお父様は本学の元学長です。



3月14日 バルコニーから流れ星

Do you know the background of the following maxim: If you say your dream while shooting star is visible, your dream will come true.

The professor in Thailand explain ---- if one is always considering his dream, he can say it even if the occasion comes suddenly. If one does not consider his dream, there is no chance. Then we can agree.

プノンペンホテルには何と部屋専用のバルコニーがあった。そこで空を眺めながらビールを飲んでいると美しい流れ星。夢が叶う吉兆かもしれない。



3月15日 EDGE コンペティション シルバー賞、アウディエンス賞報告

2月29日5名のチームでEDGE コンペティション（虎ノ門ヒルズ）に参加したところ、決勝に残り（11組）、見事に二つの賞を受賞したという。そこで都合のついた4





名が報告に来てくれた。工学、生命環境科学、現代システム科学、地域保健学の4つすべての学域からの参加で、大学院生と学部生、男女といった多様・融合チームだ。二人は国際交流会館でRS(Resident supporter)をしてくれているという。

「垣根のない大学でつながりをつくって、世界に翔く」嬉しい例だ。

結成の経緯、前泊（カプセル）、Tシャツなどいろいろな話をして、最後にメッセージボードに何かを書いてもらって記念撮影をしようとした。時間がないというので、「じゃあ白紙答案で」ということで「はいパチリ」。あとで秘書に「先生、意地悪ですわ」と言われてしまった。「そうかなあ。」



3月16日 紙幣に日の丸

Hotness are not only temperature (37), food (spicy) but also discussion for next step (with faculty members, students and industry) in PUPP.

久しぶりのプノンペン（3月14日）。6年前初めて来たときには高層ビルなどなかった。今はどんどん建設されている。信号機

も増えている。通りもかなりきれいになっている。イオンモールが進出し、東横インででき、吉野家まである。振り返ると、文民警察による選挙支援、日本橋の建設、こんなこともあってか、紙幣に日の丸が入っている。海外の国旗を自国の紙幣に入れる例はほかにないらしい。



そんな中で、電気学会の研究会を動かして国際会議を同地で開催したり、学内のいろいろな教職員、学生の協力を得て、Influencer, Influencee になろうとしたりしてきた。何人招へいし、何人派遣したか。地域保健学域や他にも府大関係者の交流を聞く。

同校には、最近、以前にもまして、日本から多くの大学が来るらしい。「一緒に何かできないか」と。いろいろな交流を彼らが歓迎している。私も嬉しく思う。我々は、府大だからこそできる次の交流を実現していきたい。魚心あれば水心。世界に翔く地域の信頼拠点の証を示していきたい。

最近はずみ指導することがなかったが、RUPPでは3組がプレゼンしてコメントを求めてくれた。熱心にアドバイスを聞いてくれると嬉しい。



3月17日 (Thailand Nakhon Pathom · Mahidol University)

On March 15, I visited four universities in Bangkok, Thailand.

The third visit is Faculty of Nursing, Mahidol University.

バンコクで府大が交流している4つの大学を（超駆け足で）訪問した。順不同になるが3つめは看護学研究科が長年交流しているマヒドン大学。

2008年から交流して、隔年で相互に派遣している。伝統的な街中のシリラート校と新しい郊外のラマティボディ校というのがあり、今回は前者。



昨年羽曳野に来た二人の学生が（二人の教員とともに）駐車場で出迎えてくれて、コサージュをつけてくれた（いろいろ訪問しているがこんなのは初めて）。演習室を見せてもらったり、ASEANからの留学生の受け入れ状況をヒヤリングしたり、英語での講義について意見交換したりした。看護学の博士後期課程（Ph.D コース）に関する特集号の学会誌（学術誌）を2冊渡された。国際看護としてのリーダーシップについて自信があるように感じた。

一人の（年配のほうの）先生がその一期生というので「新しい大学ですね。5年前ですか」と言ったら大笑いされた。そのこともあってか「一時間あれば、学術成果のタイムマシーンを作りますよ」と言われた。その気になったが、次の予定があると横から制止が入り、断念、「ネクストタイム！」

私が訪問したことで、少しでも羽曳野の先生方や学生さんたちが行きやすくなったり、先方からの受け入れが進んだりすると嬉しい。



### 3月18日 大阪府立大学高専の卒業証書・修了証書授与式

法人の理事長として招待され祝辞を述べた。就職される方、専攻科に進学される方、大学に編入される方、専攻科から大学院に進学される方、いろいろな方がおられる。将来の工業技術の発展の一翼を担うに違いない。一人だけで大きな仕事をするのは現実的ではないので、周囲の人々と多様な価値観を相互理解し、地域社会のニーズを理解し、グローバルにもローカルにもつながりをもって仕事を進めてほしい。

卒業式というのは、今までの学業の区切りをつけることであって、まなびから解放されるわけではない。しかし、区切りは区切りだ。心からお慶びする。

### 3月19日 ノルウェー科学技術大学からの来訪者

We have guests (one faculty and nine students) from Norwegian University of Science Technology. I am so happy because both students exchange idea actively, one OPU student visited NTNU before and another student has plan to visit there soon.

生命環境、理学、工学の三つの研究科が協力して交流しているノルウェー科学技術大学の教員、学生が本学を訪問。16日のことだ。本学からもすでに先方に交換留学した学生がいて、また近く交換留学するという学生もいる。

学内にはきっといろいろな交流がいろいろな国となされているのだろう。今の立場になって知る機会が増えたが、一般には、各教員がほかの教員の活動を知っているかどうかは怪しい。ましてや学生さんにどういうチャンスがあるのかは可視化できていないだろう。この facebook ページを通じて少しでも情報共有できるようにしようと思う。





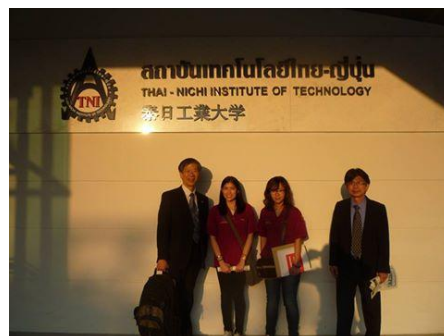
3月20日 (Thailand バンコク) 来日予定者と面会

During Bangkok stay, the fourth visit is TNI (Tai-Nichi Institute of Technology). Two students will come OPU in this month for their internship.

15日(火) 駆け足で4校回ったタイ最後の訪問先は泰日工業大学 (FB では順不同で2校目の投稿)。名前から想像できるようにタイにある日系企業と連携して運営していて、日本の政府関係者がタイを訪問するときは必ずといって訪問するところだ。日本の多くの大学が協定を締結している。日本流の生産管理だけでなく、ITやマネジメントの教育もしている。

府大は既に二人の教員を工学研究科で受け入れ、博士号の授与している。また、6か月のインターンシップを堺市の企業と協力して受け入れていて、今年は3年目。一方府大生も交換留学している。高専も交流している。両国の地元産業界と連携した国際交流として特徴あるものに育て上げたい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

学長も学部長も日本語が大変お上手。来週来日する二人の女子学生とも話したが、楽しみの中に不安もあるみたいだ。みんな歓迎してほしい。



3月21日 卒業生の演奏会に招かれて

なかもずグリークラブ第5回演奏会 (平均年齢70歳超) があり、お祝いのメッセージを書いたところ招待された。2001年に結成して2012年には関西合唱連盟会長賞、2013年には奈良県合唱連盟理事長賞を受賞しているそうだ。部員は30名を数える。身体の続き限り歌い続けるということで元気を頂いた。東京なかもずグリークラブ (2005年結成、部員15名) もわざわざ来阪して参加。

月光とピエロ (本当にピエロが登場)、河内音頭 (なかもずバージョン、途中で学生歌も)、これぞなかもずワールド (The Hit Parade、最後はペンライト)。

学生時代のつながりを忘れることなく活動を続けておられることに深く敬意を表す。中百舌鳥から翔き (はばたき)、関西全体を活動の場としてさらなる飛躍を遂げられることを願う。



3月22日 構外清掃ボランティア

6年半前から、本学では職員の方々が毎月第三月曜日の始業前に構外の清掃をボランティアで行っている。地域の方々にも毎回協力いただいている。見かけられた方も多はずだ。

この取り組みは今月末に退職される辻孝参与が発案され、「構内は業者の方に委託しているので構外を清掃しよう」ということで始まったそうだ。



本日、辻参与にとっては最後となる清掃終了後、感謝の花束贈呈のセレモニーがあった。花束はフィールドの花で作られたものだった。

ともすれば部署が違うと会話する機会がないので、こういう場合は職員同士がお互いに知り合う場ともなったようだ。これだけ長く続いているのは、参与のお人柄であろう。そして、退職されてもリーダーの後を継いでくださる方がいる。このこともすごいことだ。長い間、ありがとうございました。



### 3月22日 シリントーン国際工学部訪問

タイの文系で伝統的な大学がタマサート大学。ここが郊外に Rangit Center というキャンパスを作った時に理系も大きくしたそうだ。その Center の中（すなわちタマサート大学の敷地）にその大学とは独立に英語で工業技術を研究・教育しているのが SIIT。15日に4校まわった1校目として訪問した（あと2校目のタマサート大学本体が未投稿）。授業料はタマサートよりずっと高いそうだ。



昨年府大に SIIT の職員の方がみえ、交流について相談。それとは別にさくらサイエンスプログラムで2度 SIIT の学生を招へいしている。学長（東大）も情報系の先生（東工大）も機械系の先生（京大）も日本に留学。日本から教えに来ている先生も多い。府大も一緒に国際会議を企画したりしてきている。



機械系の先生（川崎市のベンチャーと電気自動車を研究開発）が留学中に指導を受けた助手（榎木哲夫先生）のお父さんが私の恩師（榎木義一先生）ということが分かった。



情報系の先生が JAIST で教鞭をとっていたときの同僚が私の学生時代の先輩。少し動き回るといろいろなつながりを発見できる。アクティブな人にぶつかる。そして交流がはじまる。

次の訪問先がタマサート大学そのもの。写真の電気自動車を運転していいというので、私が運転して移動した。狭いがスピードは出る。

### 3月23日 明日の式に向けて

明日の学位記授与式に向けて、関係者の方々が準備をしてくださっています。今回はじめて式の様子がインターネット中継で配信されます。桜も咲き始めたようです。Uホールの前は後輩もお祝いに集まってくれるでしょう。私もしっかり準備しています。



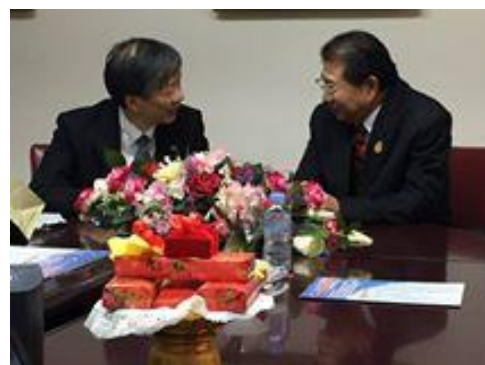
3月23日 (タイ・Thammasat University)

15日タイで4大学を駆け足で回ったことの投稿の最終(訪問順としては2校目)。タマサート大学構内のSIITを訪問することを話していたら、生命環境科学研究科の山崎先生が「その構内の保健科学部と交流があるので、紹介する」とのこと。腰の軽い私なので、頼んだところ、アポがとれて、学部長、副学部長と面会できた。そして府大で学位を取得した先生も出張中のはずだったのにわざわざ来てくれた(忙しいらしく彼女だけは一瞬会って写真とってバイバイだったが)。学部長、副学部長とは昼食を一緒にしていろいろ話げできた。今の交流協定が限定されたものなので包括的にしようという申し出を頂いた。リハとか健康スポーツとかだけでなく、理工系も接点はありそう。

面白かった出来事は次。

(1) 学部長の奥様は看護学部長。「このあとマヒドンの看護学部を訪問します」と伝えたところ、奥様はマヒドンOBとのこと。マヒドン訪問時にそのことを話したら「もちろん知っているよ」と言われた。つながりはここにも。

(2) SIITの二人の教員は、「同じキャンパス内なのに保健学部を訪問したことがない」という。「一緒に行く?」と私が誘ったかどうか定かではないが、ちゃっかりついてきて、私が学部長と話しこんでいる間に、SIITと保健学部での共同研究について盛り上がっていた。もちろん一緒に記念撮影。つながりを創ったかもしれない。垣根のない大学からつながりを。少しでも何かが起こればと思う。



3月24日 学位記授与式

卒業・修了する方へのお祝いは式辞で述べたので、ここでは準備に当たってくださった方、式を盛り上げてくださった方々に感謝を表したい。例えば、当日は朝7時ごろから準備に来てくださる方がいる。遅刻してきた人に誘導するのも丁寧にしてくださっていた。来賓への気配りもあろう。ネット配信も初めて行っていただいた。



事前にもどれだけ神経を使って準備してくださっているか・・・前日の会場準備はもちろん、他にも例えば、各証書や学位記は一枚一枚割り印を押していて、本物かどうかは確認できるようになっている。もちろん手作業だ。氏名に誤りがないように、私が読むときのために振り仮名を・・・。

学生さんのサポートも大きい。今回は手話通訳もしていただいたが事前準備は多大だったろうと推測する。オーケストラの演奏も合唱も準備に余念なくしていただいた。演奏も緊張するが、学位記授与や式辞の間、ずっと座っているのも大変だったと思う。

今夜は関係者一同ゆっくり休んでいただきたい。



3月25日

「刊行によせて」を書いたところ、一冊寄贈していただいたので、「辻待ち来ブラリ」（私の部屋の横の応接室兼待合室）にしています。このライブラリには本学関係者の著作を徐々に集めています。

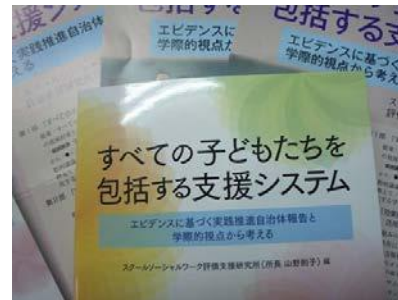
スクールソーシャルワーク評価支援研究所編  
すべての子どもたちを包括する支援システム、  
せせらぎ出版

◆刊行によせて（抜粋）

本書で取り扱われているスクールソーシャルワークの分野に関して、本学は2012年重点課題を取り扱うキーパーソン3人のうちの1人に山野則子教授を選定し、学外との連携による発展を期待してきた。日本科学技術振興機構（JST）にこの分野の重要性を提案したところ、ご理解を頂くだけでなく多大な支援を頂いた。

さらにオープンイノバティブな考えで研究を進めるため、2015年に本学の21世紀科学研究機構の中に教育福祉学研究所、SSW評価支援研究所を設立した。この狙いは、「学外の多様な方と繋がっていく、融合していく、大学の外の方に場合により客員研究員になって頂く、それで社会貢献をしていく」ということを宣言したものである。

本著で議論されている分野は、「総論は誰も理解できるが、各論になると課題山積だ」というのが実情であろう。少しでも多くの方のご支援・ご理解を頂きたい。



3月26日（大阪市 大阪歴史博物館）大阪検定客員研究員の認定証授与式と成果発表会

「なにわなんでも大阪検定」というのがあって、「大阪を再発見する機会の提供」「大阪を知る、愛する運動の推進」「大阪の都市ブランドの向上」「大阪を体験する機会の提供」を目的として橋爪先生が引っ張ってくださっている。すでに7回の試験があり、これまでの総受験者数は24,152名という。1級、2級、3級があり、2013年度から毎年、一級合格者のなかから、本学の「大阪検定客員研究員」に認定し、一年の研究成果を報告していただくようにしている。





今年は一級合格者が22名で、その中から11名（3名が新規）の方に対する認定証授与式、そして昨年認定した方々（昨年も11名）の発表会があった。3年連続発表されている方もいる。スライドの懲り方が半端ではない方もおられる。配布資料をみてもただただ頭が下がる。桂三風師匠にもコメンテータに来ていただき、楽しいひと時だった。



地域の光をみつけ、地域の光を観る。まさに観光・地域創造だ。皆様も来年は検定試験を受けてみませんか？



### 3月27日 学長顕彰

11日に学生を対象とした学長顕彰を行った。秋の白鷺祭の期間中と春の学位記授与式の直前に行っている。春はそのときに卒業・修了する学生さんが対象。

気になっているのは、

(1) 対象者が理系（特に工学研究科）の大学院生に偏っていること。「学会賞を授与された」というのは顕彰するうえで、エビデンスとしてわかりやすいが、最近、学会が学生を奨励するためにいろいろな賞を出すようになっていくことが影響しすぎているのか、



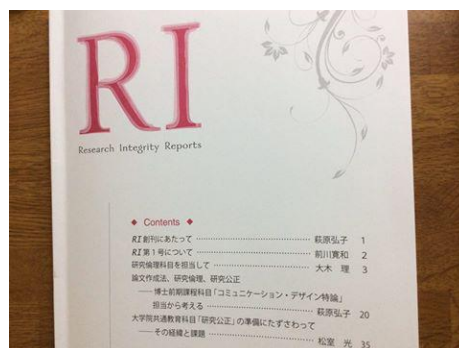
(2) 逆に、実は外部からの明示的なエビデンスはないが、文系の学部生で本学の名誉を高めるための素晴らしい活動をしてくださっているのに、それを大学が気づいていないことはないか、などだ。これらについては引き続き大学執行部で議論することになっている。

話は変わって、理学研究科の吉村さんの研究（藤井郁雄教授指導）は「急がば回れ」にヒントを得たものだという。私も25年以上前に同じことわざをヒントにした研究をしたことがあったので詳細を聞いたところとても面白かった。吉田学生センター長も異なる分野でその発想があるという。異分野交流の議論は楽しいというのをこういう場でも感じた。

### 3月28日 研究校正の紀要を発刊

昨年11月、「恒常的に研究公正、研究倫理について研究する体制を構築する」ために「研究公正インスティテュート」という研究所を発足した。

設置の第一歩として今回本学における研究公正、研究倫理の教育の報告書ができた。FD（Faculty Development）向けのもので、萩原先生、大木先生の長年の経験と省察、さらには職員として松室氏が大学院科目として準備した経緯と科目の概要が報告されている。



大木先生は書かれている。「・・・履修させたとしても研究不正がなくなるとは思えない。なぜなら倫理は論理で説明できる科学ではなく、人間の心に根差す、・・・」 「・・・ついつい悪魔の

ささやきに・・・」そして、「研究倫理の教育を発展させようとする努力を続ける中から、現代の科学に代わる新しい学問を打ち立てる人物がでてくることを期待している」。

ぜひ、全教職員が読んでお互いの理解をぶつけ合っしてほしいと思う。

### 3月31日 定年退職教職員への送辞

みなさま、本日はご退職おめでとうございます。前学長の奥野先生が「定年退職される方に『おめでとうございます』と言うのを聞くことに、抵抗感（というか異和感）があったが、学長になってそれがなくなった」をよくおっしゃっていました。自分も、今その立場になって、

「健康で定め年月までやりとげられた」ということ、

「一つの区切りをつけられた」こと

が「いかに素晴らしいことか」ということかがようやくわかるようになってきました。皆さまにはもとよりご家族の皆様にも、この日を迎えられることを心よりお喜び申し上げます。

3日の花まつりを控え（お時間があればぜひ顔を出していただきたいのですが）、（引き続き残っていただける方もおられますが）ここに教員15名、職員7名の皆さま方とお別れを述べなければならぬのはとても残念ですが、一方で感謝の気持ちでいっぱいです。

ここ10年だけをみても、三大学の統合、法人化、学域・学類制の導入など、多くのご苦勞をおかけしたことと思います。教員の皆様におかれましては、執行部（さらには大阪府）に対して不満に感じられたことも少なくなかったのではないかと推察します。職員の皆様にも、教員と大学規程、教員と学生などいろいろな板挟みにあって、大変ご苦勞をおかけしたことも多かったと思います。

大学は、いろいろ困難な時もあり、また、今も続いておりますが、皆様のご尽力によって今の大阪府立大学があると思っており、深く感謝しております。ありがとうございました。

今後とも健康に留意して、本学を引き続きご鞭撻をお願いします。



#### 4月1日 理事、管理職教員、教職員採用・昇任・再任の辞令交付の訓示

(前略) さて、皆様には、本学の発展・充実に鋭意努力するようお願いいたします。なかには「教育・研究にもっと時間を使いたい」というご希望の方も多いと思いますが、ここは、ある意味「観念」していただくようお願いいたします。入学式では、学生には「夢」をもつようにお話しする予定ですが、皆様には「夢」を追うのを少し休憩してほしいと思います。自分が何をしたいか、ではなく、周りから自分の何を必要とされているかという発想で職務についていただきたいと思います。

コメディアン萩原欽一さんは、次のように言われています。

- ・人生っていうのは自分が何になりたいかじゃない、だれに必要とされているかなんだ。
- ・何かを決めるとき、それを損得とか好きとか嫌いとかではなく、その時、その時の運命のような「ご縁」を大切にしたとき、運はたまる。つまり、目の前にやってきた大事な「ご縁」をないがしろにせず、ただひたすら精いっぱいやったときに。
- ・ところが、鋭い人や、頭のいい理屈に長けた人はこれがなかなかできない。できるのは、自分の損得に鈍い少しボーっとしている人であり、自分のことより先に、人の喜びを考える人。
- ・「何になりたいかではなくだれに必要とされているか」、ご縁を大切に、目の前にやってきたことにひたすら取り組む人でありたい。(後略)

#### 4月3日 花(さくら)まつり

鳥たちが翔く中、第7回 府大 花(さくら)まつりがあった。新聞で取り上げられたり、テレビで紹介されたりして、サクラの名所になったのか 多数の来場者があった。特に家族連れが多かったのが印象的。私も夫婦で参加した。

単にサクラをみるだけでなく、府大の自然を楽しんだり、セミナーで学んだり、農産物の試食・販売も。羽曳野キャンパスやりんくうキャンパスからも催しの企画・展示があった。学生の企画も多数あり、中消防署のポンプ車に乗っての写真撮影会も。

来場の皆さま、日頃、大学を支援頂きありがとうございます。準備して下さった皆さん、お疲れさまでした。ゆっくり休んでください。



#### 4月4日 貴重図書の図面をもとに注染の手拭

大学に保存されている貴重図書の図面をもとに、堺伝統の注染(ちゅうせん)という手法で作られた手拭が作成された。堺市の支援の下、経済学研究科の先生や学生が取り組んでくれた成果だ。軽いので海外出張時などのお土産に最適。花(さくら)祭りの会場で(割引で)販売されていた。

大量生産できないので、入手はタイミングに依るかもしれないが、ぜひ、生協でみてください。大仙古墳の世界遺産登録の応援時などでも使ってもらえればいいなあと思います。

そこに書かれていた解説は次です。まだまだ地元のことを知らない自分が恥ずかしい。

-----

江戸時代の初め水量豊かな石津川沿いの津久野・毛穴地域に和晒の産業が興りました。泉州特産の綿織物が、大阪の間屋に流れる流通経路の中間に位置していたためです。

この和晒と明治の初期に大阪で開発された「注染」という手染めの技法が出合いました。この注染法は、糊置き防染法の一つで和晒生地の上に型紙をのせ、一型ずつ防染のりをぬり、丹念に生地を折重ねていきます。この生地の上から染料を注ぎこみ、防染のりのついていない柄の部分に染料を浸透させ、表と裏の両面を染めるのが特徴です。

注染は色差しやぼかしなどの手染ならではの味わいがあり、使い込むほどに風合が増し、お楽しみいただけます。使い始めに汗や摩擦で色が移ることがありますので、ご使用前に、たっぷりの水で手洗いすることをお勧めします。



#### 4月6日 address と dress

入学式や卒業式の式辞というのはどれだけ記憶されるものだろうか。ステーブジョブスの Stay hungry, stay foolish というのは有名だ。他大学の事例を見ても素晴らしいものが多い。

(自分だけかもしれないが) 文面を練るのは思っていた以上に大変だ。入学生約 2000 人、ご家族約 1500 人の参加があるし、ストーリー配信もあったし、文面は Web に掲載するし、結構なプレッシャーである。少しでも自分らしさを出して、訴えたいことを易しく伝えたい。そう思っていることだけでも伝わるようにしたい。こういう一心の一月だった。

流れ星と富士山は最近の印象的な出来事。三人のピッチャとカーナビの話は以前に受けた印象的な出来事。元々バラバラの出来事だ。

それらを楽しく一つに縫い上げようと思った。筋が通るように多少の脚色もした。英語で演説が address、衣類が dress と分かり、面白いなあと思った。

#### 4月7日 南極での研究報告をヒヤリング

現代システム科学域の竹中教授。以前から夢にされていた南極に行き、(昭和基地ではなく) 雪上車で生活をしながら、エアロゾルの研究をされていたが、先月末無事帰国された。私は早速、制服と制帽を拝借。気分だけでも極地研究者。

砕氷艦「しらせ」には 200 人を超える自衛官が乗り、70 人前後の研究者が極地に向かうそうだ。20 日も乗船期間があり、しらせ大学というのが開講され、竹中先生は学長に就任。多少は私の苦勞も理解頂いたのだろうか。出かける前に、一つのミッションをお願いした。このことは、南極の美しい写真とともに後日別にポストする。



#### 4月8日 南極の翔く OPU 旗

竹中先生@現代システム科学域からお聞きしたごとと見せて頂いた写真の第二弾。

南極の夏は白夜。太陽は沈まず空を回るそうだ。形も四角くなったり三つになったり。360度地平線という景色もびっくり。蜃気楼もオーロラも空を覆う雲もなにもかもみたことがないものだ。

南極には菌がないので風邪をひく心配もないらしい。雪風呂というのに入るらしい。不思議なことがいっぱい。

きっと竹中先生の講義を受ければいろいろなことを知ることができるだろう。



#### 4月9日 高専の入学式で祝辞

7日(木)大阪府立大学工業高等専門学校(大阪府立大学高専)の入学式が寝屋川にある同校の体育館で

あった。50年を超える歴史をもっていて、2011年4月から公立大学法人大阪府立大学の傘下にある(つまり法人の中に一つの大学と一つの高専がある)。私は法人理事長の立場で来賓として出席した。昨年に続き2回目。あいにくの雨天(しかも風が強い)だったが、良い式だった。「入学おめでとうございます」

ちなみに昨年の理事長・学長就任以来、「大きなイベントのときには予報が雨でも降らせない晴れ男」を自慢してきたが、とうとうこのジンクスは終わった。



◆祝辞の一部は次です。

(前略)・・・20年後、30年後にどのような道具が一般になっているか、今は存在しないどんな仕事が生まれているかを考えてみませんか。それらは(どのようにして生まれるかという)、誰かが私たちのまわりの様々な現象の仕組みや本質を解明し、さらに先人の開発した工業技術を上手に進展させてこそ、可能になるでしょう。

大阪府立大学高専に入学される皆さんにはこのような将来の生活を予想し、何を要求されるかを見出し、工業技術の発展を担う一翼となっていきたいと思えます。一人で大きな仕事をするには現実的ではないので、世界中の人々の多様な価値を相互理解し、地域社会のニーズを理解し、グローバルにも、ローカルにも、つながりを持って仕事ができるだけの知識と教養・情報を身につけて・・・。(後略)



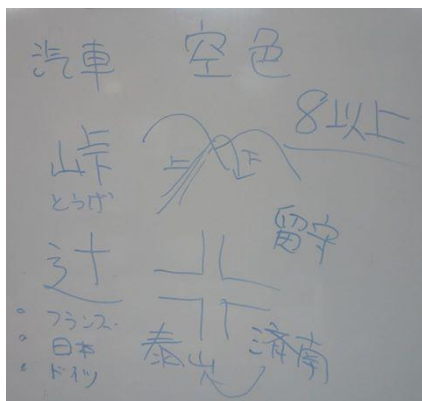


4月11日 華東理工大学からのダブルデグリー生



There are fourteen international students from East China University of Science and Technology. Seven received OPU degree this march and will receive double degree this June. They are now graduate students of OPU. Two came OPU last year and five have just arrived OPU. We are very happy because they are enjoying OPU life.

松岡先生（応用化学）はじめ、物質系の先生方のご尽力で、華東理工大学（中国）の学部生を3年次に編入で受け入れ、ダブルデグリーを授与する制度を運用している。この4月に3期生5名が来日した。同大学にはフランス、ドイツ、日本と同じような制度があるが、彼らは府大を選んでくれた。1期生の7人は修士の入学試験に合格し進学している。本日、11人と面会できた。



辻という漢字が（峠と並んで）中国にはなく交差点の意味であること、空色は中国では無色、8以上というとき「8は入らない」、中国で留守は人が家を守っていることで日本とは真逆、（中国語の）汽車は自動車、（日本語の）電車は火車など、こ

んな話をした。府大での卒論は大変で、旧正月にも帰国できなかったが充実していたようだ。

旅行が好きで、吉野山や高野山はじめ山登りが好きという話を来たので、得意の天橋立の話をした。日本の学生もどんどん海外に出てほしいと思うひとときであった。

4月12日 リーディング大学院生の帰国報告

One of SiMS students, Miyamoto-kun, dropped by my office to report his internship in Singapore. He stayed in National University of Singapore for three months and got great experience for his life. He also kindly gave me NUS t-shirt which I will wear for Yoga training.



リーディング大学院一期生の宮本君@理学系研究科が12月海外インターンシップに出かける前に学長室に立ち寄ってくれた。その後も研修中のレポートを何回か送ってくれていた。その一部はMICHITAKEにも掲載されている。

時は流れ、3か月の研修を終え、成果を報告に来てくれた（帰国したのは一か月前だったが、日程があわず4月11日になった。お土産ももらってしまった。ありがとう）。すごく成長していて、また、成長の伸びしろも垣間見えて、とても頼もしく思った。

当地での最初のミッションは「研究室の各人の研究内容を聞いて、それを発表すること」だったそうだ。他人の研究を聞いて、その意味、意図、アプローチ、現状の到達点、今後の課題などを把握して、それを他人に説明するというのは大変だが、勉強になるのは間違いない。ちょっとしたことかもしれないが、新人を迎えた時の素晴らしい教育方法だ。



4月13日 H27年度国家試験の合格率

卒業前後に発表があるので、合格された学生さんにとっては大きな喜びとともに安堵でしょう。指導して見えた教員の皆様も気になる瞬間だったことと思います。（ ）内は全国平均。

農林水産省(MAFF)

獣医師 Veterinarian 89.7% (78.8%)

厚生労働省 (MHLV)

看護師 Nurse 97.6% (94.9%)

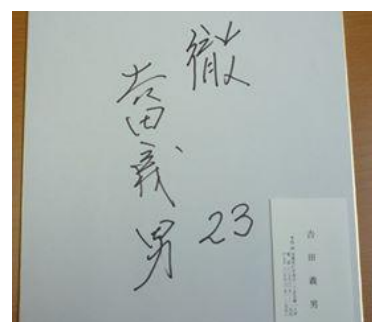
保健師 Public Health Nurse 93.5% (92.6%)

助産師 Midwife 100% (99.8%)

理学療法士 Physical therapist 100% (74.1%)

作業療法士 Occupational therapist 100% (87.6%)

社会福祉士 Social Worker 52.2% (26.2%)



4月14日 牛若丸

Open lecture on Kansai economics has started. The first speaker is Mr, Yoshio YOSHIDA who was a head coach of Hanshin Tigers. He is now 82 years old and still very active.

公開講座「関西経済論」の最初の講師は吉田義男氏。私が子供のころの野球のヒーロー。つまり、多くの聴講者にとって懐かしい方だ。選手時代の華麗な守備、監督時代の天国と地獄。フランスでの野球指導。一つのことをやり遂げた方の話は刺激的だ。

色紙をお願いしたところ、座右の銘が「徹」。私の小学校の恩師、大学の恩師の名前が「徹」。徹底、貫徹、徹夜、一徹。「つらぬきとおす」ということだ。なお、会場には最大1200人入る。これからも講義は毎週木曜日に続く。まだ、追加で申し込み可能である。

4月15日 熊本で地震

熊本で大きな地震があったとのニュース。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

本学に関しては、震度7という益城地区に実家のある学生さんがおられるようで、とても心配している。一方、15時過ぎまでに本学の同県出身の学生全員の無事は確認できた。

昨夜地震発生直後に、学生（OPU for 3.11 ネットワーク）から、「大学としてなにか動くのであれば、そして手伝えることがありましたら動きます。なんなりとお申し付けください」との連絡。早い動きに驚くとともに感謝し、また誇りに思う。

4月16日 生協の加入手続きのパンフレットにあいさつ文を寄稿

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。実は私は今も生協の組合員ですが、大学時代にいろいろな面で生協にお世話になりました。当時、教科書や書物、文具さらには下宿で利用する日用品などの購入で友人と毎日のように通っていたことを思い出します。先輩や後輩、そしてときには先生とも一緒に食堂へ行きました。タイプライターを欲しくてローンを組んでいただいたのを昨日のように思い出します（そのおかげで今でもブラインドタッチを早くできます）。

さて、先日、米国の研究者とリーダーシップについて話をしていたのですが、そのときに「We can be only successful with support of others. We gain that support through listening and caring deeply about people, the group, and the larger community and world. So expressing what you care about is always important. You are not alone. 」という言葉頂きました。

皆さんが勉強をしたり、課外活動をしたりするときふと「孤独感」を感じることもあるかもしれませんが、皆さんは決して孤独ではありません。孤独を感じる事があつたら、生協に顔を出したり、図書館に顔を出したりしてください。そして、周りの人とつながりをもってより充実した学生生活を送ってください。府大の一員として新しい生活が豊かであることを心より願っています。

#### 4月17日 新入生へのメッセージ（パーデュー大学ノフ教授）

10年以上前の話ですが、米国の大学で学生生活を有意義に成功させるためにはどのようなアドバイスをしているのかを聞きました。結構面白かったのでここに載せます。お聞きしたのは経営工学の大家のノフ教授です。彼独自のメッセージではなく、大学のガイダンスに使っている話だそうです。

##### ◆入学時に考えはじめなければならないこと

自分の健康を管理できること

家族やこれまでの友人と離れて生活することに早く慣れること（下宿生）

友人との社交の力を養成すること

職業やライフスタイルを意思決定すること

将来の目標を設定すること、時間をうまく管理すること

単位をとる事、研究テーマと指導教員を決めること

##### ◆うまくいった学生の像

学位をとったという事実：学士、修士、博士

就職できたという事実：個人的に満足する職、財政的に保障された職

他との違い（アイデンティティ）を確立：自分の専門分野で、自分の社交範囲で

##### ◆学生生活には計画が大切

自分の弱点を見つける：数学？IT利用？人とのコミュニケーション？

深く学び、幅広く学ぶ、どの教員のどんな教科を受講するか？

ボトムとして何を学び、オプションとして何を学ぶか？

アドバイスの得方：友達から？先輩から？教員から？

懐具合を気にする：TA？RA？バイト？

通常授業だけでなくいろいろなセミナーを聞く、展示会に参加する

新しい友達に会う、先生と話をする（オフィスアワー）

大学の年報などを見る、読み書きの練習を継続する

課外活動に参加する、ボランティア、国際交流

#### 4月19日 第55回友好祭本祭典パンフレットに学長挨拶

「友好祭が生み出す新たなつながり」

第55回友好祭の開催おめでとうございます。本学を代表してお祝い申し上げます。

この友好祭は、元々は大阪府立の3大学の友好を深める行事として始まりました。現在では、大学のキャンパスに新入生を迎えた時期に、3つのキャンパスの学生の友好を深める場として、また学生だけでなく教職員、地域の方同士が交流する場として、その名にふさわしい役割を果たしていると思います。

今年の本祭典テーマは「LOVE あふれました。」ということで、実行委員会の皆さんだけでなく、来場者の学生、教職員、地域の方の持ち寄ったLOVEで、この大阪府立大学をいっぱいになりたいという意味だと伺いました。

大学祭という非日常の場は、新入生、在学生、留学生、教職員にとどまらず、様々な人や組織が出会う機会となります。出会いがつながりを生み、つながりはLOVEへ発展していくでしょう。私は人と人、地域社会・国際社会とのつながりを重視しながら、大学運営をしていきたいと考えていますが、友好祭はまさにつながりを生み出す一つの大きな機会だと思います。ですので、来場者の皆さんには積極的に交流をしていただきたいと思います。

色々な企画が行われていますので、出演者と観客といった関係だけでなく、出演者同士、観客同士でも是非交流をしてみてください。多様なバックグラウンドを持つ人たちの間でのつながりは、新しい価値を生み出す可能性を持っています。友好祭がそのような場となってくれることを、私はとても期待しています。

末筆ながら、本祭典の開催に尽力してこられた実行委員をはじめ、関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、この友好祭が参加するすべての方にとって、素晴らしい時となるように願っています。

#### 4月20日 副首都推進会議

19日、副首都推進会議にて、大学統合の話があり、出席した。すでに、府議会、市議会の議決で「次の中期目標期間内（H29年度～H34年度）の統合にむけて準備をする」という指示を受けているので、その流れだ。関係者の意見を聞いて進めるという付帯決議もあり、拙速な動きにはならないが、知事市長からは次の方向が示された。

(1) 大学は知の拠点として重要だ。運営費交付金をこれまで減らしてきたが、もう減らさないで、その範囲内で工夫して新しいことをしてほしい、大阪の産業に貢献することをしてほしい。

(2) 府単独設置も市単独設置もない。府市共同設置で進めてほしい。

(3) 自分たちにも任期がある。任期内に法人統合、その後大学統合を進めてほしい。

長い道のりになることは間違いない。一筋縄でもいかない。在学生にも受験生にも（心配をかけているのは間違いないが）不利益があってはならない。卒業生からも（不快感が出るだろうが）支援してもらえそうな形にもっていきたい。大学は持続的な存在だからこそ地域の信頼拠点になれるのだとも思う。統合されると公立大学としては異例の規模になるが、少子高齢化を迎え、海外の大学とも（研究でも教育でも社会貢献でも）競合して発展しなければならない。

会場を出たら記者に取り囲まれた。考えていることを述べ（ようと）したが、うまく伝わったかどうかはわからない。マイクの前で推敲なしで起承転結、メリハリをつけて話すのは容易ではないが、職務としてこなさなければならない。



4月21日 永年勤続表彰

On April 6th, seven faculty members got long-service awards. Congratulation. As a reward, they are given five days vacation for relaxation

4月6日付で7名の方が30年永年勤続表彰された。リフレッシュ休暇が5日。30年・・・、一口に言うがすごい時間だ。きっとご家族はじめ、周りの方々に支えられてここまで来られたのだと思う。おめでとうございます。

4月22日 上京

昨日は久しぶりに上京した。5時半起床。10時から、公立大学協会の監事として昨年度の事業内容、財務内容を監査した。場所は虎ノ門。公大協についてはいずれ書きたい。

昼食後、堺市の東京事務所長を表敬訪問したのち、大阪府の東京事務所長を表敬訪問。いずれも赤坂見附にある。彼らとは今後も情報入手のパイプとして交流の幅を広げたい。府大の東京在住のOBとの交流（つながり）も望んでおられる。

その後、公大協に戻り理事会に出席。通常の議事のほか、熊本県立大学の被害状況の話、今後の支援について議論。また、神戸市立外大の船山学長（元府大）は先日国連で模擬国連を神戸に誘致するために5分間スピーチされたという。達成感あるお話はすごい。

最期に麴町の日本学術振興会（学振）を訪問。ここには4月1日より刈谷さん（3月まで地域連携研究機構）がフェローとして赴任している。彼の上司お二人に挨拶し、その後、八重洲で食事しながら学振の（科研費を中心に）業務をヒヤリング。三週間経ちだいぶ慣れてきたようだ。人事交流は大切だ。このような職員のキャリアパスをもっと開拓していきたい。

新幹線で爆睡して帰宅した。

4月23日

I have plan to join Taiwan-Japan University Presidents' Forum held in Tainan-city. It is great honor to present our experience "OPU incubation Model" on industry-university collaboration on May 12 at National Cheng Kung University.

少し先になるが、5月11日から15日まで台湾に出張予定。12日に台南で開催される台日学長フォーラムに出席するためだ。去年は身動き取れなかったが、今年は2月のベトナム、3月のカンボジア・タイに続いて3度目。今回は10分だけだが、発表の時間をもらった。両国からそれぞれ6校が発表で、公立大学からは一校だけということだ。

折角の機会なので、11日には台南大学、長栄大学の知人に会い、13日は交通大学（新竹）と淡江大学（台北）を訪問し、14日には台湾日立の方々と以前に行っていた共同研究のフォローアップをするとともに旧交を温める予定。「（ゆっくりすればいいのに）また、（短時間で）動き回っている」と言われそうだが性分なので仕方ない。他にもすでに二つの大学から（ありがたいことに）招待を受けたが、時間がタイトになるので、（申し訳ないが）辞退した。

台南大学とはこれまで交互に4人ずつ学生交換しているし、淡江大学とは（理学系研究科の藤井先生のお世話で）すでに3回両大学共催でシンポジウムをしており、教員だけでなく多くの学生も発表している。この秋に4回目を同校で開催予定。このような交流があるということを情報共有し、類似の活動がいろいろな研究分野で増えればいいなと思う。

4月24日 同窓会など出席予定：

大学統合の状況など大学の近況については、（学内はもちろん）卒業生など関係者によく説明・報告をするように思っています。今次に声をかけていただいております、出席の予定です。

5月 9日 白鷺会（私鉄5社OB会）

6月 5日 斐文会（大阪女子大学）

名古屋同窓会

6月11日 獣医学友会

6月19日 校友会理事会

11月6日 広島同窓会

6月に在学生の保護者代表に来ていただく後援会、その後、他の同窓会など声がかかれば（可能な限り）お伺いして、その時点での状況を説明します。

4月25日 大学と高専での講義

教員として正規の授業（講義）は、H25年度まででしたが、今では担当できなくなっている。今年は特別に大学で一回、高専で一回（ゲストスピーカーとして）機会をもらった。

5月17日、現代システム科学域一回生向け「情報とサステナビリティ」と6月27日、高専一回生向け「総合工学システム概論」。

今から楽しみだ。しっかり準備をしようと思う。

4月26日 熊本地震被災者に義援金

Monetary Donation for Kumamoto Earthquake at President Office

学生団体OPU3.11ネットワークが（頑張ってくれていて）学内で義援金を集めていますが、箱を学長室受付にもおいてくれました。ご協力よろしくお願ひします。

学長室に来られない方はネットでできるANAとJALのマイルで寄付はいかがでしょうか。



4月27日

斐文会（大阪女子大学の同窓会）の理事会が新しくなったということで仁科理事長、加藤副理事長、奥野事務局員が訪ねて下さりました。お土産に同会の野上孝子さん著「山崎豊子先生の素顔」（文芸春秋）を頂きました。

野上さんは、「白い巨塔」「華麗なる一族」「大地の子」「沈まぬ太陽」など私も夢中で読んだ小説の裏方として山崎さんを支えた秘書で、同書はその回想録です。

通勤で読もうと楽しみです。読み終わったら、「辻待ち来ブラリー」に入れます。

なお、斐文会の総会・マリンバの演奏会・懇親会は6月5日（日）にあります。



4月28日 「チャンスの法則」

The speaker of Kansai Economics is Ms Motoko Obayashi who was a famous valley ball player. She is now a sportcaster as well as an actress.

公開講座「関西経済論」の講師は大林素子さん。「マイ・ドリーム～夢をあきらめない」と題して、幼稚園時代、小学校時代のご苦労（コンプレックス）から素晴らしい先生との出会い（チャンス）、オリンピックを目指してひたすら夢をおったこと、最近ではスポーツを卒業し、女優として夢を追っていることなどをお話いただきました。

「チャンスの法則」という著作も頂き、著書、色紙にサインもして頂きました。ネガティブ人間だって自分をポジティブに転換させる方法さえ身に着ければ「チャンス」は必ずつかめる、という力強い格言が満載です。

会場は満員で、受付時と終了時に学生さんが熊本地震の募金活動をしたところ 91,643 円をお預かりしたとのことでした。

ちなみに今回特にお世話になった山本章夫教授は、20年にわたり全日本女子バレーボールジュニアチームのトレーニングを指導され、海外遠征（この逸話はとても面白いです）にも何回も同行されています。実は高校時代私もバレーボールをしていて山本先生のチームにコテンパンに負けた覚えがあります。

4月29日 授業体験 WEEK（申し込みは6月1日から）

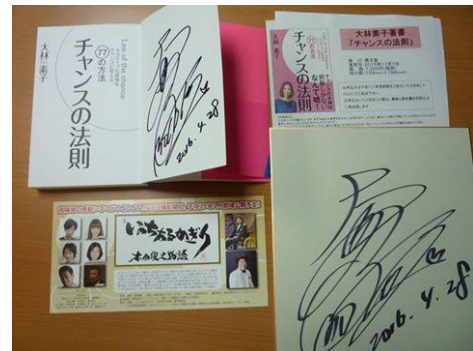
OPU prepares a variety of events for examinees. Especially, new event on experience-based real university classes are open between July 11 and 15.

従来、猛暑の8月初旬に一度だけ行ってきたオープンキャンパスの殻から抜け出し、様々な角度から大阪府立大学を体験出来るイベントを一年通じて開催します。

特に昨秋（一日だけ小規模に行った）実授業に体験参加するイベントを、今年は「高校生のための授業体験 WEEK」として（期末試験終了後で比較的高校生にとって参加しやすい）

7月11日（月）～15日（金）に企画しています。これは、（模擬授業ではなく）実際に行われている授業を大学生と一緒に受講するもので、資料配布コーナーを設置しており、さらに終了後、希望者を対象に個別進学相談も行います。もちろん、食堂や生協購買を利用したり、自由にキャンパスを散策したりすることもできます。

在学生が連休中に母校（高校）を訪問することがあれば、恩師の先生や後輩に、このような新たなイベントがあることを紹介してくれませんか？もちろん、弟妹に紹介いただくのも大歓迎です。





4月30日 登校時の挨拶

Let us say "good morning" to guard at Nakamozu gate when you come OPU in the morning. Of course, it is not rule but I hope it is OPU standard.

日頃、朝8時30分ぐらいにオフィスに入る。先日、少し遅く登校したら、学生さん多数と一緒にだった。

守衛さんが「おはようございます、おはようございます、・・・」と声をかけているのに、多くの学生さん(たまたまかもしれないが実際は誰も)がそれに何も答えていない。少し悲しい思いをした。

学生の皆さん、登校時守衛さんに「おはようございます」、友人にあったら「おはよう」、どこでも挨拶は相手の顔を(ちらっとでもいいので)見て、声を出してみませんか?きっとその日が一日気持ちよくなると思いますよ。社会的規範(Social Norm)とって、

◆誰もしなければ自分もしない

◆まわりがしていれば自分もする

というそんなものかもしれない。

社会的規範と言うとふと、思い出すのが・・・大阪万博の前に、吸い殻のポイ捨てはもちろん、ガムの吐き捨て、地下鉄の割り込み乗車など(社会的規範がなくて)当たり前だったが、今では(誰もしないからと思われるが)誰もしない。(強制ではない)暗黙のルールかな?米国などでは道を歩いていると、(知らない人にでも)目をあわせて挨拶してくれるのが一般的だ。

ちなみに高専に行くと、(教員が指導したこともあるのだろうが、誰もが自然に)学生さんはすれ違うだけで来客に「おはようございます」「こんにちは」と挨拶をしてくれる。以前、私の研究室にいた一人の学生さんは「ご機嫌よう」という挨拶だった。彼女の学んだ高校(あるいは育った家庭)の社会的規範だったのだろう。



5月1日 さくらサイエンスプラン

科学技術推進機構 (JST) のプログラムに「さくらサイエンス」というのがある。これは、招へいたしたアジア地域の学生が日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本側の大学の教職員、学生が地域の企業とも一緒になって海外の人材の育成を進め、もってアジア地域の科学技術の発展に貢献することを旨とするものだ。息の長い活動が必要だが、国際交流から地域連携、地域とつながる国際交流を進めるには使いやすいプログラムだ。

毎年数回公募があるが、今回、府大から2件の提案（瀬田先生と古田先生）が採択になった。カンボジアの王立プノンペン大学は3年連続。ベトナムのダラット大学は3年申請を続け、今回初の採択。それぞれの意味で嬉しい。

昨年の RUPP の報告は次にある。お互いの学生に刺激を与えている様子が見えるし、（教員だけで取り組むのではなく）教職員と学生が一緒になって協力してこそ取り組めることもわかる。

これまで両国以外にもタイやインドネシアの大学の招へいもしているが、（本学の規模や実力や何より理念から見て）もっと応募件数、採択件数が増えてもいいはずだ。教員が650名、4%が応募してくれれば26件、その40%が採択になれば10件。取らぬ狸の皮算用かもしれないが、このような提案活動を活発に行っていくよう教職員の皆様（特に過去海外で研究をしたり、今後海外で研究を希望している教員）にお願いしている。



5月2日

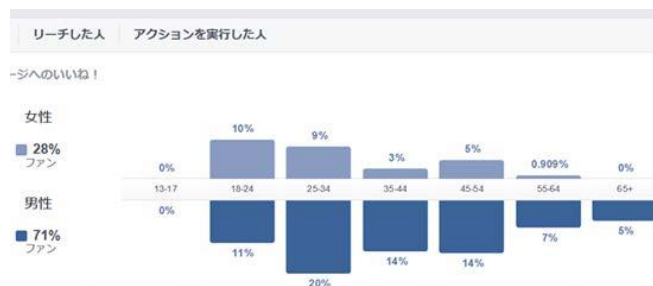
One hundred days have passed since this facebook page opened.

According to statistics, some posts reach more than two thousand users although the number of official followers is around two hundreds and twenty. In fact, such statistics encourages us to continue posting.

公開日時	投稿	タイプ	ターゲット設定	リーチ	エンゲージメント
20160501	Two proposals have been accepted by Sakura S...	📄	👤	87	13   2
20160430	Let us say "good morning" to guard at Nakano!	📄	👤	2.3K	218   72
20160429	CPU prepares a variety of events for examp...	📄	👤	1.8K	153   50
20160428	The speaker of Kansai Economic in Ms Nakano	📄	👤	1.8K	182   78
20160427	慶文会 (大阪女子大学 国際交流部) の活動紹介	📄	👤	1.3K	104   32
20160426	Monetary Division for K...	📄	👤	506	31   22
20160425	大学と企業での連携	📄	👤	615	👤 (12)

1月にページをオープンしてから原則毎日一つ投稿を続けている。その日の出来事であったり、これからの予定であったり、とりとめもない。また、あるときは教職員向け、あるときは学生向け、あるときは卒業生向けで、対象もとりとめもない。

5月1日の投稿をした直後の統計情報を共有してみたい（画像をピックアップすれば読めると思う）。日によって情報が届く人数（リーチ）は大きく異なるが2000人を超えることもある。少ない時でも500人程度に届いているようだ。シェアされたり、「いいね」をつけられると（当然ながら）リーチの数は増える。読まれたということではなく、単に表示されたということであろうが、自分自身は驚いている。男性が75%であり、特に年齢の高いほうでは差が大きい。海外在住の方にもそれなりに届いているのではないだろうか。



ノイズも多いかもしれないが、どんな意見・感想が誰の胸に響くかはわからない。なにがしかの（プラスの）影響を与えることができれば望外の喜びである。

国	ファン	市区町村	ファン
日本	170	Osaka大府市	37
カンボジア	17	Osaka PrefectureSakai	33
ベトナム	5	カンボジアフロンベン	17
フランス	3	Osaka淀川市	7
イギリス	3	Kanagawa鶴川市	6
台湾	2	Osaka PrefectureKaiwa	6
オーストラリア	2	Hyogo高砂市	5
タイ	2	Kyoto京都市	5
アメリカ合衆国	2	Hyogo PrefectureKobe	4

5月3日

Spring in Osaka ends and summer starts as azalea are in full bloom.

After golden week, preparation for Yuko festival inspires students to make friendship.

なかもずキャンパスでツツジが満開（動画の初投稿、今年は例年より咲が悪いような気がするのは私だけ？）になると春も終盤、夏の入り口。ゴールデンウィークを超えると、友好祭の準備も本格化していきます。

服装もクールビズ。各人が少しずつでもいいので、省エネの工夫、省エネの努力、省エネの呼びかけも必要。よろしくお願いします！

5月4日 ハイスクール放射線サマークラスの出場校募集中（5月27日まで）



夏に過去32回にわたって「みんなのくらしと放射線展」というのが開催されている。そのプログラムの一つとして次代を担う高校生等を対象とした教育イベントがある。本学の放射線研究センターの先生方が取り組んでいるイベントだ。

昨年、私もその発表会（第4回）に参加した。生徒が自ら調べて科学的に考えたこと（多くはクラブ活動と推察される）を学校対抗で発表し、他校と生徒と討論を通じ、プレゼンテーションスキルや「科学する心」を育てているのがよく分かった。高校の先生方の指導にも力が入っているのが想像できる。報告書は次にある。

<http://www.housyasenten.com/report/>

もちろん、開催案内は運営事務局から前回出場校やSSH指定校などに送られる。ここでは、府大が地域貢献の一環としてこのようなイベントを行っていることを知ってほしい。

5月5日 木曜日は「木（も）っと府大DAY」。5月19日、6月16日、7月21日

木曜日に前期は関西経済論という公開講座を行っている。これにあわせて、月に一回、健康講座から最先端の研究施設までもっと府大をしっていただくためのイベントを企画してもらった。

植物工場研究センターや放射線施設の見学ツアー、大学の貴重書の特別見学、府大池の安協調査ツアーに加え、「もっと経済学」「推拿（すいな）でいきいき健康生活」「キャンパスウォーキング講座」なども用意している。

大学で栽培した野菜・果物を使って作ったジャムやカレーなどの府大グッズ販売、フィールド（農場）産の野菜販売もある。

きっとこれらの日々は大学の人口が10%増え、平均年齢が4~5歳上がる。大学の構成員みんな、来校した地域の皆様に「こんにちは」という挨拶（声をかける）をしたいものだ。

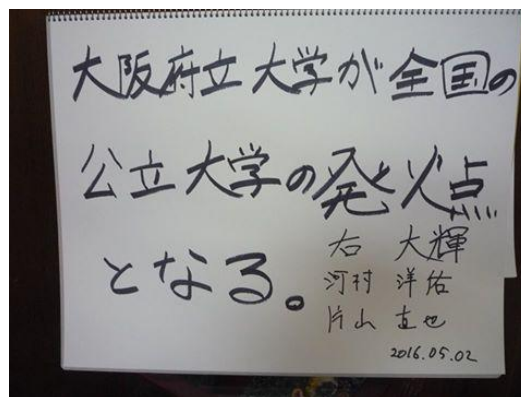
研究時間を少しでも確保したい教員、毎日の業務に追われている職員の方々には、仕事を増やしてしまっているが、地道な活動が府大ファンを増やすことになるかと信じている。



5月6日 公立大学学生ネットワーク～link topus.

学生のまなざしを大学・地域に活かし、地域の課題解決と未来創造に貢献することを目指した公立大学の学生ネットワークがある。

先日その副代表の片山君、近畿地区代表で府大内の受け皿（今は唯一）になっている OPUfor3.11 ネットワークの前代表・河村君、現代表の右君がこれまでの活動状況と今後の計画について報告に来てくれた。地域防災に関して、災害後、災害前に分けるとか、物的支援と精神的支援に分けるとかするといろいろな活動があることが見えてくる。LINK topus には、地域貢献している他団体からも参加してほしいそうだ。まず府大内で LINK topus の流れをつくらうとしている。



これまで、LINK topus の全国大会は、公立大学学長会議と同時開催され、昨年度は名古屋市立大学で、今年度は北九州市立大学である。今年度は「北九州市」という地域に絞って議論することを計画しているとのことだった。近く、北九州市長に会う予定があるので、こういう動きを紹介し（、可能なら支援をお願いし）ようと思う。

垣根のない大学からつながりを創る。こういう動きを学生さんから聞くのは楽しい。

5月7日

今年はいじめて「学域」の卒業生を出した。進路がどうなっているかを調べたところ、1,236人の卒業生がいて、550人が就職、647人が進学。残りの38人が留学、研究生、専門学校、資格取得準備、公務員や教員への挑戦、（留学生の場合で）帰国などとなっている。

大学全般でいえば就職状況は順調だが、たまたま不運が続くなどして悩んだ学生さんもいたと思う。やる気があっても環境に満足できないとイライラするのは当然だ。環境がよくても、何かの拍子でやる気がうせてしまうと社会から孤立しかねない。しかし困難は将来の強さを与えてくれるとも思う。大学のサポート体制を使ってほしい。

大学から社会人へとシームレスな人材育成を担当するのがキャリアサポート室。いろいろなイベントや仕組みを考えてくれている。情報も発信している。

キャリアという言葉からどういうイメージを持つだろうか？難しく考えすぎることはないが、「自分は何になりたいのか、それはなぜか、そのために自分に足りないのは何か」などを考える習慣を日頃からつけておくのが大切な気がする。流れ星を見た時に夢を言うのではなく、お月様を見たら自分のキャリア計画を言えるぐらいのつもりで。

5月8日

5月10日（火）米国ニューメキシコ大学（UNM）から、Chaouki T. Abdallah 副学長が見え、夕方サイエンスホールにて講演会(英語) があります。私は残念ながら別件があり、講演を聴講することはできませんが、一緒にランチする予定です。

UNM に FLEDGE プログラムとして (研修料を支払って) 府大の教職員・学生を派遣してきたほか、同大学からは3月に学長はじめ工学部長が来校され I-wing なかもずで国際交流協定を締結しています。今後、さらに学生交換の協定 (相互に授業料免除) へと進めたいと思っています。

これまでの経験からは、米国の大学は学生交換の協定に一般的に消極的です。個人レベルの交流 (person-to-person) では難しかったので、そうではなく組織レベルでの交流 (group-to-group or organization-to-organization) にすることでこれをクリアできないかと思っています。そのために学内の多くの先生にデモを含む研究紹介や会食をお願いしています。

Chaouki T. Abdallah 先生に「ニューメキシコ大学の学生に府大への交換留学を勧めたい」という風に思っただけならば、府大からも継続的に UNM に派遣できるようになります。世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。

5月9日 勉学の一環として渡航する学生を指導する教員の方へ

自然災害、交通事故、テロなどに対する危機管理の強化が必要だ。特に学生を海外に派遣する場合、緊急時に24時間対応で専門家から適切な支援を受けることが求められる。

そのために大学負担で JCSOS 緊急事故支援システムを活用している。これを利用すべき学生は、教員や助成団体から渡航費用の支援があるかないかにかかわらず、勉学の一環 (海外留学だけでなく、語学研修、海外スタディツアー、国際学会発表、調査研究活動など) として渡航する場合も含まれ、出発一か月前までに手続きをしなければならない。海外旅行傷害保険の加入も必須だ。

必ず手続きをするように指導してほしい。昨年度の手続き者の数を調べたところ、どう見ても渡航者数に比べると少ない。制度が知られていないのか、知っているのに手続きされていないのかはわからない。

5月10日 親子四代の卒業生はいるだろうか？

8日、帝塚山学院創立100年、帝塚山大学開学50年の記念式典と祝賀会に招待され参加した。帝塚山学院は、大阪女子大 (女専) とともに創立時に山田市朗兵衛という人が深く関わっていて、ある意味兄弟校のような学校だ。

驚いたのは親子四代卒業生という家庭が2組、親子三代の家庭が50組いて、表彰されたことだ。幼稚園から大学まで揃っていることもあるのだろうが、同校の教育が信頼された証でもあるような気がする。

これまで親子で府大という先生や、孫が府大に合格したという OB を知っているが、四代府大とか三代府大という卒業生はいるのだろうか？おられれば、ぜひお会いしてお話を伺いたいと思う。

5月11日

去る9日、関西私鉄5社の OB 会に招待され出席した。5社で集まるようになって7年目になるという。驚くことに73名の参加があった。OB 会と言うと私の世代より上の先輩の集まりというイメージがあるが、この OB 会には今年入社を含め、若い人が多数。

必ずしも同じ時期にキャンパスにいたわけではない。皆が同じ専門を学んだわけでもない。しかも同じ会社にいるわけでもない。なのに、4年 (場合により6年) 同じブランドの大学にいたということで集まり談笑する。OB 会ってそんなものなのだろう。

私鉄と言うと「地域貢献」だ。生涯学習サービスにも強い関心があるはずだ。私鉄と大学とで一緒に「地域貢献」の新しい展開が何かできる、そんな印象をもった。

大阪府立大学から新しいつながりを創っていく。その場に招かれたことが嬉しい。

#### 5月12日 台湾一日本学長会議

台南市に来ている。詳細は別途落ち着いて見たこと、聞いたこと、感じたことを書きたいが、今回、学んだ日本語と中国語の違い。

台湾では、学長のことを校長とよぶ。学長とは先輩のことらしい。年長が年上のことのように、学長は自分より長く学んだということで先輩なのだろう。こんな会話から議論は拡がり、お互いの理解が進む。言葉の背景を話しているうちに異文化交流が深まる。そんなもんだと思う。

PS ご存知ない方もおられると思うので、台湾の新幹線の車内をご紹介します。



#### 5月12日

この四月から大阪市立大学の学長は荒川哲男先生です。消化器内科がご専門で、医工連携にも熱心な先生です。学生時代は自転車で放浪されていたそうです。両大学だけでなく、大阪の発展について、厳しく楽しいお話をしていますし、これからもしていきます。

#### 5月13日

英語で200人以上の前で話したのは初めてかもしれない。それも学長、副学長ばかりが聞き手で、恥ずかしながらすごく緊張した。この歳になっても終わってから「良かったよ」「面白かったよ」と言われると嬉しい。よし、今度はもっといいプレゼンテーションをしよう、と反省しつつ悪い気はしない。昨日12日の話。そんなもんだと思う。

会場の国立成功大学は、台湾で二番目にランキングされている総合大学。日本から(交換留学でなく)正規の留学生が20人をこえている。一年生は全員が入寮。二年には出なければならぬ。グローバル化への工夫はそれぞれの大学でなされているのがよく分かった1日だった。

#### 5月14日

At Taiwan-Japan University Presidents' Forum, I presented our OPU incubation model.

「大阪府がどこにあるかはほとんどの方がご存知でしょうが、形をご存知ですか？人の胃の形で、だから大阪は食い倒れの街なんですよ」





というところから入り、「何故異分野連携が必要か、どうしたらそれができるか」をデフォルメして分かりやすく発表した。

最後は定番の天橋立股覗きの台南公園版(詩付: Water-lily seems to be full moon under upside-down view : 水蓮が 満月のごとく 股覗き) で締めくくった。

準備は時間的にも精神的にもきつかったが、このような場を頂けたことを感謝している。

5月15日 交通大学を訪問

As Prof. Ryu who is an OPU honor professor is staying in Taiwan university called 交通大学, I dropped by his office on 13th, Friday. He seems to be very happy because he can focus on his interest.



新竹市にある理系に強い交通大学に理学系研究科の柳名誉教授が招聘されているので、立ち寄らせて頂いた。キャンパス見学

とともに先生お勧めのレストランで一緒に昼食をし、いろいろなお話をお伺いした。先生はとりあえず「2年間に半年以上滞在する」という条件で招へいされているようだ。授業もされている。

同大学には以前府大に交換留学生として滞在したチェリーさんがアシスタントで務めている。今回、駅と大学の往復やレストランの予約は彼女が面倒を見てくれた。謝謝。

世界中のいろいろなところに府大の現役、OBの先生がおられるとネットワークが広がる。そこに多くの教職員、学生が訪問すると、世界の常識なのに府大(日本?)の非常識、府大(日本?)の常識なのに世界の非常識などがわかってくるのではないだろうか?

府大OBも世界中に海外赴任されているはず。我々の訪問を受け入れ、意見交換させて頂ければありがたいし、学生のインターンシップを受け入れて頂ければと願う。海外在住OBのネットワークを作りたいとこの半年強く思う。

世界に翔く地域の信頼拠点になるために、やりたいこととやらねばならぬことはいっぱいある。

5月16日 ニューメキシコ大学からの来訪者

We had courtesy visit by Prof. Chaouki T. Abdallah who is a Provost & Executive Vice President for Academic Affairs of University of New Mexico on May 10th. Although I had no time for attending his seminar, we had lunch together and exchanged idea for future collaboration. He knows my seniors and friends in control theory domain. I wish we could have great friendship and excellent collaboration.



アントレプレナーシップ教育で交流しているニューメキシコ大学(3月に学長の訪問があった)から副学長の先生の訪問を受けた。彼は制御理論を専門としていて、私の学生時代の専門と近く、当時の私の先輩らと面識があるようだ。世界は小さい。EISTI(フランスの大学院大学)とのダブルデGREEプログラムを紹介し、同じようなことができないかを意見交換した。私の願いとしては、



(1) 府大の学生をアントレプレナーシップ教育で1週間10人程度受け入れてもらう

(2) 府大は同大学の学生を2名程度ダブルデGREEで一年受け入れる

(3) お互いに授業料免除

というものだ。うまく交渉が成立するよう関連する教職員のご尽力を期待している。

5月17日

Animation and voice actor club is authorized as an official OPU club after Jun 1st. The chairman and vice-chairman come my office with their adviser to invite talk show held on May 29th during university festival.

友好祭の二日目5月29日(日)12時30分—14時に声優の方をお招きし、トークショーがあるという。東京や名古屋からも参加があるということで企画の概要やその取り組みの熱意を語りに学長室に来てくれた。

アニメと言えば、もう10数年前の卒業生が漫画家を志望していたなあとか、留学生が来日の動機を聞いたら「アニメとゲーム」と言っていたこととか、I先生の(アニメの)知識に学生が「圧倒されました」とか嘆いていた(?)ことなど思い出す。

私のころは、鉄腕アトム、鉄人28号、巨人の星、・・・声優と言えば大山のぶ代さん、熊倉一雄さんなどを思い出す。最近のことはわからないが、代表的な日本文化であり若者に大きな影響を与えているのは間違いない。留学生に聞いても「ドラエモンで日本語を勉強した」という声をよく聞く。



5月18日

I heard that a staff would get married soon. Congratulation! When I get good news, I become also happy. When I get bad news, I become also sad. We would like to share emotional feeling among greater OPU fellows.

今年になって「結婚しました」とか「結婚します」という(嬉しい)話をよく聞く。こういう話を聞くと自分のことではないのに嬉しくなる。一方、哀れな話を聞くと、他人事であっても悲しくなるし、楽しい話を聞くと元気をもらうような気がする。

喜怒哀楽を共有する。これは一緒にクラブ活動をしていたり、研究をしていたり、組織運営をしていたりするときに、仲間がいて、そういうときだけ可能なのだろうか? 孤独を感じないようにする。目標を共有する。課題を共有する。相互理解を深める。

社会の中にいる個人として(たとえ、ちょっとしたことだと思っても)コミュニケーションは大切だ。そんな気がする。

5月19日 オプカレの挑戦-----運営スタッフ&サポータ募集中

知的障がい者にとって、特別支援学校等を卒業した後に、大学等で学ぶ機会が少ないということから、学生が主体となり、1998年から「オープンカレッジ(オプカレ)」を実施している。これまでのべ500名以上参加があったという。



先日その運営スタッフの3人が学長室に来てくれて、活動状況を報告してくれた。本学教員や警察署など多くの方々の協力を得ながら、生物や防犯・防災についての講義、季節ごとにお花見やクリスマス会などを実施してきた。

少しでも自立を、そして、知的好奇心を、ということで、いろいろ考えてくれている。やってみること、続けること、そして、悩み、考えることが大切だ。

教育福祉学類の学生ばかりかと思っていたが、生命環境科学や工学の学生も参加しているという。本学は、ボッチャという障がい者スポーツでの取り組みも有名だ（総合リハビリテーション学）。垣根のない大学でつながりを・・・

5月20日 I-Site なんば

大阪市立大学の荒川哲男学長と読売新聞社の取材を受けた。



5月20日



On the way from Tainan to Japan, I visited 淡江大学 on May 13th where our international alumni, Prof. 王三郎 is working. I am also very happy to meet their president, students and to be invited dinner.

台北の北部の淡水というところに淡江大学という台湾の私立大学がある。ここには、農学研究科（現生命環境科学研究科）修了の王三郎先生がおられて、ここ3年連続して、府大の（理学、工学、生命環境に限らず）化学系の先生方と国際シンポジウムを開催している。年々発表者は増え、今年は11月に台湾で開催する予定で、多くの大学院生が発表の準備をしているはずだ。



今回、台湾に渡航する機会があったので、立ち寄らせていただき、学長を表敬訪問した（写真は淡江大学提供、左から三人目が張家宜学長、右端が王教授）。卒業式の準備をしている学生と一緒に写真を撮らせていただいたり、学内の博物館を見学したり、散策したのち、夕食に招待された。そこではメニューに府大のロゴが印刷されており、「おもてなし」を受けて感激した。学生は3万5千人という。

大阪府立大学の海外の卒業生とのネットワーク。こういうのをきちんと活性化していきたい。どんなつながりがあるのか、共有するのが大切だ。世界の翔く地域の信頼拠点になるために。

5月21日 アカデミックライティング

学生の皆さんは必ずアカデミックライティング入門「レポートの書き方」を勉強してください。論拠は（主観情報ではなく）客観情報。誰かが言っていることは（それをコピーするのではな





く) 必ず参考文献として引用する。(独善的に論じるのではなく) 先行研究との違いを出張する、などなど。この冊子を見たことがないとか、知らないとかということはないですね!

5月22日 ボートフェスタ

We are happy to be invited to OCU (Osaka City University) 125th Boat Festival. It is really well-organized and enjoyed not only rowing boat (knuckle four) but also watching events.

大阪市立大学のボートフェスタに昨年に続き招待された。125回目というのだから、私の祖父が生まれる前から続いていることになる。市大関係者がこよなく愛している伝統的なイベントで、教職員、学生だけでなく一般市民も参加できる二日間にわたるものだ。

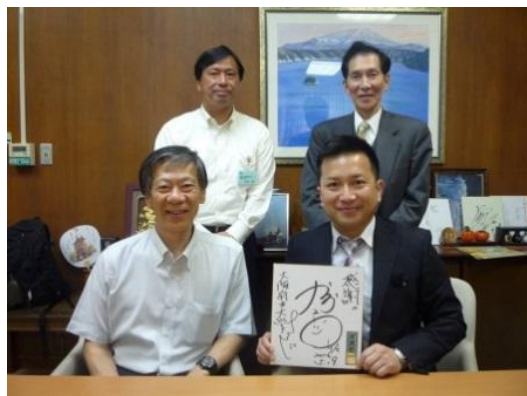
これまで開会式が炎天下で長かったので少し大変だったが、今年はテントが用意され、短めだったのでイベントを見るうえでも楽しめた。パレード演奏、ライブアート、応援団などどれも素晴らしかった(終わった後、部長らしき方を囲んで反省会と思われることをしていたのも印象的)。企画・準備された方々に感謝する。

去年はナックルフォアのコックスだったが、今回はコックスの前の四番さん。市大のボート部の学生さん(朝四時半に起床したという)が5名のペースの合わせ方を指導してくれる(陸上で行う練習器具がある)。「キャッチ、ソー、キャッチ、ソー」の掛け声。「ソー」ではなく「ロー」ではないかと疑って調べてみると、どうも「キャッチ」で水をつかみ、「ソー(saw)」はノコギリを引くイメージで、この二つの動作で「ロー(row)」のようだ(推測なので誤っているかもしれない)。自分としては「入れて、ヨイショ」ぐらいの掛け声のほうがいいようにも思った。

5名のペースがあうと、力を入れなくても進む。逆にペースが乱れると、各自がいくら力を入れても進まない。何事もそうなんだろう。ボートを漕ぐとこのことが改めてよくわかる。良く覚えておきたい。

5月23日

19日(木)、公開講座「関西経済論」で桂吉弥氏に講義をお願いしました。吉弥さんはお住いの関係で私の自宅の近くの公園にご家族で見えることがあるらしく、非常に身近に感じました。落語に出てくるお金のお話を含め、人生の変わり目のお話など楽しく語って頂きました。米朝師匠、吉朝師匠などの思い出話、修行の厳しさ、そして楽しさ、あっという間の講義でした。2階席までいっぱい聴講者でした。



この日は、今期第一回目の「木っと府大デー」。公開講座を一つのきっかけとして、多くの方が府大ファンになってくださることを期待しています。

### 5月24日 産学官連携協定を締結

16日、富田林市役所で多田市長他市の幹部の方々、富田林工業団地内企業で構成される富田林高度技術連携協議会の幹部の方々を訪問し、産学官連携協定を締結しました。

世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。



### 5月25日



東京、なんば I-site、なかもずキャンパスをつないで老若、男女、東西をとわず、Greater OPU で勉強(?)、啓発(?)する場です。第二火曜日に開催されることが多いので、私はなかなか参加できないのですが、そして、少しずつでも「つながり」「府大の輪」が広がればいいなあと思っています。いつも準備にご尽力いただいている皆様に感謝です。

それにしても府大のOBにはいろいろな方がおられるなあというのが、今の職位になって改めて知るところです。

### 5月26日 経営審議会の外部委員として

北九州市にある九州工業大学を訪問する機会があった。用件の前に少し時間があったのでキャンパスを散策した。特に印象的だったのは、

(1)もともと私立だったということで、その後、国に移管され、現在に至っているようだ。国立大学にこのような例は他にない。最近、私学が公立大学になるケースが多いので、このあたりの仕組みがどうなっているのかと関心をもった。(創立者などの胸像があった)

(2)学内の案内が、日本語だけでなく、英語、さらには中国語と韓国語が記載されていた。大学が学生に対するメッセージではないだろうか?府大は全くできていない。

(3)学食に個食用のテーブルがあった。回転率を高めるためと書かれていたが、以前、テレビ番組で「最近の学生は個食が増えている」という少し負の解説があったので気になった。

他にもつつい府大と比べてしまう。いろいろ学ぶ点があった。他大学をみることは大切だ。府大の常識、世間の非常識にならぬためにも。

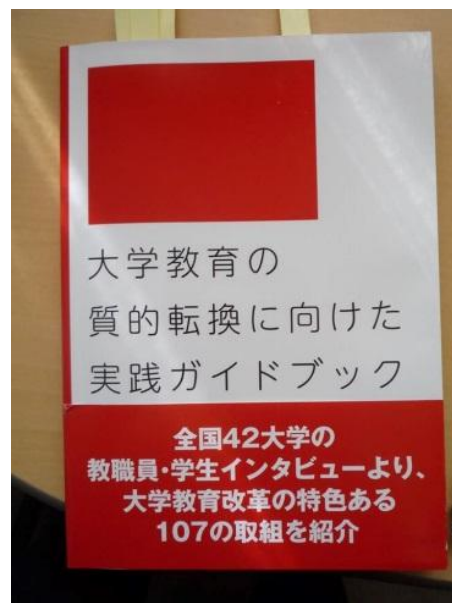


5月27日

文科省がとりまとめた「大学教育の質的転換に向けた実践ガイドブック」という書籍がある。これは大学における特徴ある教育事例を42分野107個集めて紹介している。府大からは、107事例中なんと次の分野で5事例も取り上げられている。

- (1) カリキュラムの体系化の工夫
- (2) 種選考以外の分野を履修させるための取組
- (3) 教養教育の充実、基礎学力の向上
- (4) フィールドワーク、(5) オフィスアワー

教職員の努力の賜物であろうが、こういう形で文科省から発信されたことを知ると嬉しく思う。



5月28日

The 55th Friendship Festival organized students has started. The topics is OVERFLOWED LOVE.

第55回の友好祭が28日、29日と開催されている。メインテーマは「LOVE あふれました」。従来の開会式会場とはかわり、通称：白鷺草原で。テントの多さから活性化状況がわかると思う。若いエネルギーを感じる。

27日の通常の授業があったので、準備の学生さんたちは徹夜になったのではなかろうか？もちろん前日だけでなく、準備は何か月にも及ぶものだろう。PLAN-DO-SEEのサイクルを年次を引き継いで行っていく中で、意見の対立があったり合意形成が起こったり、妥協、交渉など「ひと」だからこそころるさまざまな行為を経験しているのだと思う。大学では知識の学習だけでなく、このような行為の作法を学んでほしい。

天候がもってくれればいいが。地域の人もフリマの出店など参加してくださっている。留学生も準備をしていた。卒業生も多数来ているようだ。世界に翔く地域の信頼拠点で。

5月29日

欧州留学フェアというのが、京都(6月11日)と東京(12日)で開催される。本学が交流しているフランスの大学院大学(グランゼコール)EISTIの国際交流の責任者(Head of International Relations)から「フェアがあるので、府大を訪問したい」との連絡があった(彼女には府大からの留学生が交流当初から大変お世話になっている)。

<http://www.ehef-japan.org/jp/presentation>

思い出してみると2005年にEISTIを訪問して交流が始まった。「誰かが留学しないと実を伴わない」ということで、当時飛び級で米国留学を希望していた学生N君にフランスに行くことを勧め、2006年に実現した。彼のミッションはフランスの学生に府大にくるよう勧めること。

翌年、N君の誘いもあって二人のフランス人が3か月のインターンシップに来た。研究室旅行には天橋立に行って股覗きをした。この二人の来日は、当時の研究室の学生たちに「海外に出よう」という大きな刺激を与えた。



その後、ダブルデグリーの制度を作った。府大の T 君は EISTI でディプロマを取得した。来日希望の学生が多くなり（説明会に行くと 30 名近く集まる）、全員を受け入れられない状況になった。EISTI を卒業してから、府大のドクターコースに入学するフランス人学生も出た（入学手続きのサポートなどそれなりに大変だった）。

府大を卒業して日本で就職したり、家庭をもったりする EISTI の OB も出続けている。「夏休みだ」と言って遊びに来てくれる元交換留学生もいる。フランス出張時に両親の家に泊めてくれたダブルデグリー取得者もいる。

どうして（手間暇かかるのに）交流をはじめたのだろうか？たぶん、前職時代に、上司から（普通に考えるともらえない状況で）海外で研究する機会をもらって（33 歳の時で初めての渡航だった）、  
「世界は広い。常識が変わる。次は後輩に（海外に住む＝外国人になる）機会を与えよう」と決めたのだと思う（後付けかもしれない）。

N 君、T 君、最初に来日した EISTI の二人をみて、留学を決意した学生も少なくない。影響を与える人(Influencer)と影響を受ける人(Influencee)。気づかないところで、「ひととひととのつながり」が広がって今がある。

5 月 30 日

学生の課外活動、福利厚生、就職活動に対する援助を行う組織として、「後援会」というのがある。これまでも大学の手が届かない多くの活動を支援して下さっていて、感謝している。

今年の新しい取り組みとして、「～こと起し事業」を募集している。これは、新しいアイデアを具体化、実現化し、起業や地域活性化に結びつけることを目指す学生活動を支援するものだ。ゼミの研究活動や資格取得、すでに大学から助成を受けている活動ではなければ、広く「学生の取組（最大 3 年間をめどに実現を目指す）」が対象となる。

昨今の世相からみて、学生がこのような提案活動をするのは大切なことだし、世の中からも期待されていることだと思う。友人を誘って、グループで応募してみてもどうだろう。いろいろ相談してくれる教職員もいる。最大年間 50 万円を 2 年支援してもらえる。個人的に期待しているのは、「世界に翔く地域の信頼拠点」に相応しいテーマだが、もちろん、それに限るものではない。

5 月 31 日 インターネットからの著作権のある作品のダウンロード

「違法なものとは知らなかった」ではすまないのが、著作権を侵害するデジタルデータのアップロードやダウンロード。法律によって禁止されている。

本学でも「府大のネットからファイル共有ソフトを使って、不正にダウンロードしている」と警告を受けることがある。みんなで、大学が定めるルールとともに各種法令（個人情報保護法、著作権法、不正アクセス禁止法等）を遵守しなければならない。

被害者にならないためにウィルスを持ち込まない最新の注意が必要だし、加害者にならないため、SNS に不用意な発言や書き込みをしないことも必要だ。不明点があれば、全員に配布している「情報環境利用ガイド」を確認するとともに、異変に気付いた場合は、速やかに指導教員に相談するかヘルプデスクに相談するなりしてほしい。

## 6月1日 社会的責任としての環境報告書

Association for E-Campus edited OPU university social responsibility report for four times. They come to interview for editing the fifth report. The report will be published in October.

E~キャンパスの会（ええキャンパスの会）というのがあって、現在12名のメンバーがいるそうだ。これまで4年にわたって環境報告書を出している。学生主体で府大の環境に関する活動を取りまとめたもので、外部評価も得て、公表している。

本日、平成28年度版（平成27年度報告）の一部に私のインタビューを入れるというので来てくれた。彼らの活動のきっかけは、報告書を見て「すごい」と思ったのが大きいそうだ（私は昨日過去の4年の報告書を取り出し読み直したが改めて力作だと思うし、こういう学生とその努力に敬意を払う）。

「今年の方針は」と聞くと「読みやすさの追求」とのこと。外部委員から文字が多すぎるという指摘に対する対応だそうだ。PLAN-DO-SEEをまわすということだろう。

「何を期待しますか」と聞かれたので、「報告書にある大阪府立大学環境理念（基本理念、基本方針、行動するうえでの6つの視点）だけでもいいので、英語をつけてください」とお願いした。例年通りではなく一歩進める。そういう姿勢が大切だと思う。



## 6月2日 女性大学院生チーム IRIS

IRIS (I am a Researcher In Science) is a group of female graduate students in OPU. They are role model as Rikejyo for female high school students and junior high school students because their behavior affect on younger girls. They also learn something from elder female scientists and



engineers as role model whose success can be their aim. OPU should support their activity.

IRISの6期生の任命式があった。今年も27名の応募があった。そのうち、11名が継続者であり、3名は、M1からD3までずっと活動している。聞いてみると「先生のすすめがあった」「先輩を見ていて参加したいと思った」「先生にはこっそり応募した」といろいろなパターンがあるようだ。

活動については、小中高校生へ科学の面白みを教えるイベントもあれば、受験生に理科系の研究を紹介するイベントもある。実験や通学やバイトなどで忙しくて十分に活動する時間をとれない（ので参加してもいいのだろうか）という心配もあるかもしれない。できる範囲で活動すればいいのではないかと思う。

研究室を超えて悩みを相談したり、どうやってそれを乗り越えるかを考えたりする場になればいいなあとも思う。少しでも部局を超えたつながりができることを願っている。

6月3日 トリリンガルの八木早希さん

Ms. Saki YAGI is a famous trilingual TV caster. We invited her as a special lecturer of Kansai economics.

公開講座「関西経済論」の7回目の講義に八木早希さんに来ていただいた。アメリカで生まれられて、幼少期をカリフォルニアで過ごされたのち、小学校高学年を韓国で過ごされ、高校時代にシアトルに留学されたそうだ。三か国語を話されるのでバイリンガルの上のトリリンガルと言われている。



毎日放送時代にタイガーウッズやトムクルーズ、ヨン様はじめ韓流スターに対するインタビュー含め、『「信頼」を生むコミュニケーション』と題したお話をさせていただいた。話しているうちにこちらが思わず高揚してしまう盛り上げ上手な方だった。東京でも仕事をしたいと思われてフリーになられたが、「やはり大阪がいい」ということで主な活動は関西にされている。

韓国の公立小学校に転向され、韓国語で自己紹介したときの話。地元の生徒に発音・アクセントの違和感を指摘され、すぐ、その指摘に沿って自己紹介をやり直したら、そのとたん、韓国の皆さんの表情が変わったとのこと。その変化をみて、彼らと友達になれると確信されたらしい。すぐ臨場感があるとともに理解できるお話だった。「信頼」を生むコミュニケーション。いろいろ聞いた。大切だ。府大のみんなで考えたい。

6月4日 IPA（情報処理機構）認定スーパークリエイター

One of OPU graduate has been selected as a super-creator by IPA. Congratulation. He is now working with DFKI in Germany. I am glad to hear that he is now going to be a visiting researcher of OPU.

工学研究科の博士前期課程を修了して、現在、DFKI（ドイツのカイザウラウテルンにある人工知能研究所）にいる石丸君。2日にスーパークリエイターに選抜されたと公表された。今週は府大に戻ってきてくれていて28日にデモを見せてくれた。おめでとうということとともに誇りに思う。

DFKIは黄瀬教授が在外研究員として滞在したところで、私も何回か訪問した。すでに10人を超える情報系の学生が長期・短期に滞在しているのではないだろうか？先日あったIRISの学生も滞在したという。これからも続いてほしい。世界に翔く府大生として。

#### ◆スーパークリエイターとは

IPA（情報処理機構）では、2000年度よりソフトウェア関連分野で優れた能力を有する「スーパークリエイター」を発掘支援することを目的に「未踏ソフトウェア創造事業」を実施し、毎年度の事業終了時点で担当プロジェクトマネジャー(PM)から特に優秀であると評価された開発者を「天才プログラマー/スーパークリエイター」と認定している。

#### ◆未踏の「スーパークリエイター」発表から (page 2)

ドイツ人工知能研究センターに所属する石丸翔也氏は、心の状態を可視化するツール「心温計」を開発した。Apple WatchやFitbit、JINS MEMEといったウェアラブルデバイスから得られるアクティビティ情報、FacebookやTwitterなどどの程度文字情報に触れたかを通じて、1日の身体行動量、認知行動量、社会行動量、睡眠量を算出。



これらの数値の7日間の平均、分散、変化率にもとづく特徴から、機械学習で心の状態を定量化する。これにより、ユーザーが自身の心の状態を把握したり、周囲に共有したりすることによる心の健康への理解につながれるとしている。

6月5日 成長する人は世界観が人生とともに変わる

It is announced that professional boxer Muhammad Ali was dead. He floated like a butterfly and stung like a bee. Based on my impression, he seems to have two faces. He is sometimes nihil and has cold heart. He is also hero and has peaceful heart Which is real his face? Of course he is a hero. I pray that his soul may rest in peace.

若い人は知らないかもしれない。カシアスクレイが改名前の名前で、私の記憶で初めて登場したいわゆるビッグマウスの冷酷な（にみえる）ボクサーだった。当時のヘビー級のボクサーは歩くようにしか動かなかったのに対し、「蝶のように舞い蜂のように刺す」と自らがいていたが、ピョンピョン跳ねるように（これを蝶のように舞うという）動き回り、一撃するのが印象的だった。

ベトナム戦争への懲役を拒否し、タイトルを剥奪されたことは有名。反戦運動、人種差別撤廃運動に大きな影響を与えた。

彼の言葉に次のようなものがあった。成長する人は世界観が人生とともに変わる。変化がなければ「時間の浪費」と切り捨てる。府大生にとっては4年の大学生活。すごい表現だ。

The man who views the world at 50 the same as he did at 20 has wasted 30 years of his life.

6月6日

二つの同窓会に招かれてはしごした。一つ目は大阪女子大学の斐文会。二つ目は名古屋校友会。大阪府立大学の同窓会は全体を束ねる校友会。そして地域の同窓会と単位同窓会（学部あるいは学科単位）からなる。学部再編や大学再編を経験してきた知恵ともいえるつながりだ。

斐文会は昼食をはさんでのもので、マリンバの演奏会が企画された。24歳と23歳の男女のデュオ（percperc=パクパク）で楽しそうに暖かい音色を届けてもらった。トークも素晴らしかった。名古屋校友会では、「もう一つの鳥人間—パラグライダーに魅せられて」と題して、杉元先輩の講演が企画された。60の手習いだそうだ。首都大学東京の名古屋での幹事の方にも参加いただいていた。それぞれ大学を応援してくださっている。支援してくださっている。若い人の参加が増えるように（参加しやすいように）工夫してくださっている。

大学はまだまだ先輩方の支援を必要としている。海外インターンシップの受け入れなどにもお力を頂きたい。世界に翔く府大生を育成するために。

6月7日 God sees into our hearts.

もし、研究費でクレヨンしんちゃんを買っていたらどうだろう。もし、正月に家族旅行に行っていてそこで有名な研究者と面会して宿泊費を研究費で出していたらどうだろう。違法ではないが不適切ということになるのだろうか。人間って弱い。感覚が麻痺するというのは一般的だ。それにしても・・・母親から「誰も見ていなくてもお天道様がみているんだよ」と叱られた覚えがある人は私だけではなかろう。単に線引き問題で、どこに線を引くかの個人差の問題とも思えない。

「自分はこれだけのことをしているから、これぐらいのことは当然許される。他の人とは違う」という意識だろうか。「あの人はそんなことはしないだろう」と思っていたのに、「していた」ことが分かった時の虚無感。（違法ではないにしろ）周りを巻き込んで、本来使わなくていい調査の時間をとるような（不適切な）ことはやめてほしい。

6月8日 古巣で講義

I talked my experience on "system research, development and education in my forty years" as a guest speaker in a class.

現代システム科学域の「情報とサステナビリティ」で講義をする機会をもった。今の立場でこういうことはめったにない年に一度のことだ（高専でも今月末に一度機会をもらっている）。学域共通科目なので300人を超える一回生を前に話した。その振り返りはポートフォリオとしてまとめられており、それを楽しく読ませてもらった。封筒当たり20名分が16通ある。



読むと反省することも多い。

(1) 「現代システム科学域の生まれの時のことが分かった」とか「システムってなあにということに対し少し理解できた」とかあり、逆に言うと言域の名称からどういうことを勉強するのか分かり辛いのだろうと改めて感じた。



(2) ITと経営の接点やヒューマンインタフェースの認知的側面の話触れたが、（ネタは持っているのだから）ITと環境の接点も触れたらよかった。

(3) 国際交流（フランスやカンボジア）のことを触れたところ、「自分もチャレンジしたい」と書いた学生が多数いても嬉しかった。



(4) 中国瀋陽の進学校を訪問した話をしたところ「私はその卒業生です」と声をかけてくれた。きっと私が訪問していたことを知り驚いたことだろう。

(5) シリコンバレーでの思い出話、データと情報の話に興味をもってくれた学生もいて、それぞれ印象にもつところは違うことを確信した。

(6) (きっと覚えていないだろうと前置きして) 入学式の式辞の概要を振り返ったところ、「流れ星の話、覚えていましたよ」と書いてくれた学生も結構いた。

もし、少しでも聞いてくれた学生に影響を与えることができたら・・・。



## 6月9日 How can we collect impressive photo for OPU?

例えば次のことを参考にいろいろな人のいろいろな視点からの府大を印象づける写真（美しい風景、不思議なもの、動植物、実験風景）を集めることはできるだろうか？

-----

ある社長の方からお聞きした。そこでは会社の研修時に社員に会社の中でもっとも象徴的に感じるものの写真を一枚出してもらおうそうだ。そして、タイトルと簡単な説明を添えて。

-----

タイトルのつけ方にも（例えば15字から30字とかすると）工夫がいるのだろう。説明があると「へえ〜」というところから新たな発見・気づきがあるかもしれないし、「私と同じことを思っていた人がほかにもいたんだ」と嬉しく思うかもしれない。スライドショーにするとキャンパスガイドになるかもしれない。

学生が、先輩が、教員が、職員が、来訪者が、保護者が……。誰か企画してくれるならぜひ相談したいと思う。垣根のない大学のイベントとして。

## 6月10日 高校生向け公開講座

Open lecture for high school students on Material science will be held on Aug. 6th at I-site Namba.

昨年まで、オープンキャンパスを8月の炎天下の土曜日曜を使って開催してきた。せっかくなら来ていただいた高校生に対して、暑さはとても気になる。また、大勢の方に来ていただくので、その準備も大変だ。



今年度は、むしろ、実際の大学の講義に参加していただくことを考えてきた。7月（の高校生の定期試験後）に企画している。8月の全学一斉のオープンキャンパスは行わないことにした。

ところが、先生方からは「やはり、大学の授業ではなく、高校生向けの講義をすべきだ」「夏休みにすべきだ」という声が多く出ている。新たなことを始めるのも難しいがやめるのも難しい。

前置きはこれくらいにして、8月6日（土）マテリアルサイエンスの公開講座が企画されているので紹介したい。府大生はぜひ高校の後輩に紹介してほしい。40名先着順だ。なんばのi-SITEで行うので暑さの心配はない。

明石大橋、ハルカス、飛行機、新幹線……。現代文明をささえる「もの」の科学だ。

PS:大学には多くのイベントのお知らせや注意喚起のお知らせがあるが、最近「学長FBでも紹介してほしい」という依頼が学生からも教職員からも来るようになった。嬉しい反響だ。できるだけ支援したい。

## 6月11日 元宇宙飛行士の土井隆雄氏の講演予告

元宇宙飛行士の土井隆雄氏(現: 京都大学宇宙総合学ユニット特定教授)が25日に府大に来てくださる。あの2回宇宙に行かれた土井さんだ。16:00-18:00に学術交流会館多目的ホールにて。

講演「宇宙をめざせー日本の有人宇宙開発」のあと、「土井さんと語る宇宙開発の夢」と題して、宇宙科学や宇宙開発の研究などを行っている学生の代表たちとのパネルディスカッション。



専門分野が違ってても（夢をどう持ったか、どう実現したか、最短経路だったのか迂回したのかなど）学ぶところは多いと思う。

6月12日 東野圭吾さんの夢幻花（むげんばな）

久しぶりに一息に小説を読んだ。府大OBの東野圭吾さんの夢幻花だ。読みだしたら止まらなかった。いつもそうだ。

最初に読んだ氏の作品は、直木賞をとられた「容疑者Xの献身」で2006年。当時学科に彼の著作の（マンガや短編を含め）すべてを揃えて、貸し出した（今でもあるだろうか）。台湾の新幹線の駅で訳本が山積みで売られているのを見て、思わず、「本学のOBの著作です」と言ってしまったこともある。

氏の小説をもとにした映画もいくつか見たし、テレビの連続物もみた。そのときどきの技術、自然災害、家族・社会問題などを絡めて話が進む。ストーリーの展開の面白さだけでなく、登場人物（彼らが背負っている何か）に何か（そしてなぜか）共感をもつというか身近に感じるところがあるから、読みだしたら止まらないのではなかろうか。この本も学長室の隣の待合室の「辻待ち来ブラリ」に入れておこう。

6月13日 印象派の画家が活躍した風景を楽しみませんか？

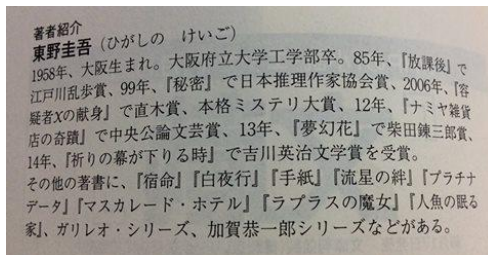
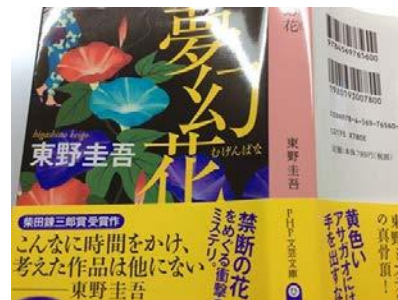
パリ近郊のヴァルドワーズ県は大阪府の姉妹都市で、その関係で府大との交流は深い。その一つの大学院大学の国際交流担当の方（私は10年以上交流している）が来日されたが、お土産に

**Impressionists** という本（説明付き画集）を頂いた。印象派だ。

絵画については詳しくないので誤っているかもしれないが、印象派は屋内で絵を描くのではなく屋外に出たこと、色鮮やかに細かく描いたことなどが特徴だったと思う。当初は、既存の画風の画家から厳しい批判（いじめ）を受けたという。どこの世界でもこういうことは起こるのだと思う。何年前かにその大学院大学を訪問したときに、印象派が活躍した場所をドライブに連れて行ってもらった。

府大に交換留学でくる多くのフランス人は（アニメやゲームかもしれないが）日本の文化に興味をもって各自の専門の勉強をしに来日する。府大の学生もフランスの文化に興味をもって自分の

専門を磨くために留学してくれればと思う。大学は応援する気は満々だ。まずは学内のフランス人と友達になってみてはどうだろうか？



## 6月14日 ビクトリー仮面の人形焼

大学に後援会というのがある。これは学生生活の向上と大学の発展に寄与することを目的としている。会長には中野長久名誉教授にお願いしている。その理事会、評議会があった。昨年度の決算と今年度の予算を審議するためだ。

昨年度の事業としてビクトリー仮面の人形焼化が紹介された。生産技術センターで鋳型をつくり（写真）、それで着ぐるみとともに知ってもらおう活動だ。地域の方のアドバイスも受けたとの説明があった。ボランティアのVからV仮面になり、それではというので、ビクトリー仮面と称している。白鷺祭や地域行事で反響を得たという。



今年度の事業として、なかもずキャンパスとりんくうキャンパスでは100円朝食、羽曳野キャンパスでは昼食時サラダサービス（無料）を試行実施するという。学生皆さんの健康管理の支援のためだ。7月11日から8月5日で、好評であれば続けてもらえそうだ。

一時、後援会の加入が（50%近くまで）減って心配していたが、関係者の努力で80%を超えた。何をしたか、何をしようとしているかをしっかり説明・広報することが求められている。後援会の支援を受けた学生さんの力も得て、課外活動・就職活動・福利厚生への援助、さらには教育研究環境の整備を期待したい。

## 6月15日 自転車・自動車の構内乗り入れ

悲しいことだが、昨今、キャンパス構内において、自動車や自転車等による事故が多発している。大学でお願いしているルール・マナーが必ずしも守られていないようだ。相手にけがをさせると非常に辛い思いををすると思う。「何とか規制を厳しく」という声も聞こえるが、各自が自分だけでなく周りにも注意しあうなどすることで対応できないだろうか。OPUスタンダードという暗黙の規範として、次を確立できればと願う（学生センターからの通達）。

-----

○自動車による通学は行わないこと。

原則として、身体に障がいがある場合や怪我、課外活動のための器具運搬などの事由により事前に許可を受けた場合しか自動車の入構は認められない。

○ノーバイク・ノーカーズーンには自動車・単車を乗り入れないこと。

身体に障がいがある場合や怪我などの事由により許可を受けた場合しか、ノーカーズーンへの自動車乗り入れは認められない。許可を得て乗り入れる際には、歩行者や自転車等の安全に特に注意すること。

○構内では、歩行者等の安全に十分配慮し、道路標識・標示等による指示に従いながら、すぐに停止できる安全な速度で運転すること。

白鷺門、中百舌鳥門付近及び学内の各交差点付近などでは、出会い頭の接触事故等が起りやすいため、特に注意すること。

○自転車の運転に際しては、スマートフォンを見ながら、傘をさしながらといった、いわゆる「ながら運転」をしないこと。

6月16日 大阪府大阪市リーガロイヤルホテル・

14日(火曜)、大阪市立大学の前理事長兼学長の西澤良記先生ご退任祝賀会があった。市大と府大は大阪にある公立大学として切磋琢磨していく関係であり、いろいろなことを学ばせていただいた。



会には平日にも関わらず250人を超える方が参加し、先生の交流の幅の広さに驚いた。奥様も参加されており、なごやかな楽しいひと時だった。招待いただけたことだけでも光栄なのに、祝辞を述べる機会も頂いた。(以下、原稿を読んだわけではないので正確ではないが祝辞)

-----

本日は西澤先生、皆様、ご退任祝賀会おめでとうございます。大阪府立大学を代表してお祝い申し上げます。また、このような晴れの舞台にお招きいただき誠にありがとうございます。

さて、両大学はともに大阪にある公立大学として、長くお互いが切磋琢磨していく関係であり、ご存知のように「すでに5年を経過した」と思いますが、数年にわたって大学統合という政治主導の話の中で、今後のありかたについて議論を進めてきたところでもあります。私は昨年理事長・学長を拝命したところですので、西澤先生のご苦勞の時間とは比べものにはならないのですが、この難しい時期に両大学をリーダーシップでもってご指導いただいたことに感謝するとともに心から敬意を払いたいと思います。

先生の任期の最後の年度のグローバルキャンパス構想に対する先生の指導力(ある意味執念)は素晴らしいものでした。「できるかどうかは予算のこともありもちろんわからない。だけど言うべきことは言う」という迫力のある指導のもと「新大学の象徴として、大阪の都心部にキャンパスを展開し、国内外の大学との開かれた学術交流のネットワーク拠点を構築する」という提言書をまとめることができました。これは知の交流拠点、連携拠点、創出拠点となるもので、今後のあるべき姿というのを示されたと思っています。

他にも大阪市立大学の伝統を守りながら、改革を進められたことは、横からみても学ぶところがたくさんありました。例えば、「都市科学」をテーマに設定され、健康科学イノベーションセンターなど4センターの設立は市大のミッションを明確に示され、府大はできていないなあと反省する次第です。他にも英語教育改革、クォーター制の導入などは学内の慎重意見を押し切ったとお聞きました。これらは本学も倣っていきたいことであります。

大学改革の思い出話をはじめると、エピソードはつきませんが、両大学はスポーツの対抗戦(これはこの週末もおこなわれていましたが本学の10勝15敗で負けだったそうです)、それとは別に、毎年お招きいただき(あれは多分西澤先生の発案でしょうが)ボート祭が、実に思い出深かったです。今年が125回とお聞きしましたが、ああいうイベントがずっと続いている市大の伝統がうらやましく思っていたところ、4年前に府大の役員艇も加えてもらった、なかなか懐深い計らいだと思いました。

当然、「市大役員艇勝つ」と思われての企画でしょうが、確かに初年度には、府大艇はスタートラインにつくのがやっとで、完敗。2年目は府大艇がスタート直後にリードして「勝てそう」と途中で思ったとたんに「お先に」と抜かれたのですが、ここ2回は、勝ってはいけないのにも関わら



ず府大艇の完勝。さぞかし、誘ったことを悔やんでおられますでしょうね。……、西澤先生、すいません。

今後も荒川先生はじめ、市大の役員、教職員の皆様方と切磋琢磨して、両大学協力して、大阪の高等教育をけん引していきたいと思っております。簡単ですが、西澤先生のこれからの益々のご活躍とご健康を祈念してご挨拶に替えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

#### 6月17日 向かいに座っている人の職業は？

昨日の関西経済論の講師は 野菜ソムリエ協会理事長の福井栄治さん。本学経済学部のOBだ。商社に勤務していたときに インドネシア大学に2年間留学されたという。そのときに、食の安全の大切さを痛感し、今の事業を創業された。アイデアは、氏独特の磨かれた感性によるのだろうが、アスリートフードマイスターや受験生のお母さん、キッズ向けなど発想が広がったそうだ。

幼少時代、ご尊父に「電車の乗ったら向かいに座っている人の職業を推測しろ」といわれたそうだ。結果が正しいとか誤っているとかではなく、常に考えておく習慣をつけられたのだろう。お話を聞いていて、そう思う。

普通の人が見過ごす、聞き流すところにビジネスチャンスを見出している。素晴らしい。

#### 6月18日 環境教育と社会的規範

We had courtesy visit by Vietnam trainees on June 17th who are involved in JICA Grassroots Project. The project name is "Establishment of Waste Material Circulation System Based on Marine Transportation in Ha Long Bay".

現代システム科学域の大塚教授らが 草の根でベトナムのハロン湾の環境教育（指導）をされている。その関係者がトレーニングということで堺市の設備を見学したり、府大での環境関連の研究・教育を学んだりするために来日したということで（アオザイを着て）訪問してくれた。

私からは次のような話をした。

---

小学校のころ、川や池で魚をとったり、野原で虫をとっていましたが、中学校の頃から、農薬や工場排水の影響でそういうことができなくなりました。夏には光化学スモッグが発生し運動場で遊べないこともありました。その後、環境保護が大切という認識が広まり、法整備もでき、最近では池や川に魚が住むようになりました。

府大池も10年前ぐらいは自転車が投げ込まれたりして汚かったのですが、先生方が学生さんと一緒になって、（人の力でなく）自然の力で浄化されるよう整備して最近ではきれいになってきています。

また、70年に大阪万博が開催されるまでは、吸い殻やガムのポイ捨てや吐き捨てが一般的でしたが、最近ではそんなことはありません。社会的規範と言って、「皆がするとそれに追従する」と



ということがあるので、法律ではなく自然と人間が共生するという意識付け・倫理観がとても大切だと思っています。最期になります、今、府大では自転車の駐輪や走行に関して OPU スタンドができればと願っています。

#### 6月19日 オープンカレッジの入学式

18日(土)、入学式があり、招待してもらったので参加した。保護者の方の見守られる中、21名の方があらたに「オプカレ」に入学。サポータの学生さんたちも前日までかなりの準備をしていたのではないだろうか。



私はあいさつの中で(入学生に対してだけでなくサポータに対しても)二つの問いかけをした。

(1) 昨日と今日で、皆さんは出来ることに違いがありますか?

本日と明日で出来ることに違いはありますか?

(2) 食事をするときにおいしい好きなものから食べますか?

それとも嫌いなものから食べますか?

私は次のように考えています。

一日単位でみていると、出来ることに変わりはないかもしれませんが、少し長めに考えると(オプカレ場合、2年間)、必ず違いが出てきます。大切に時間を使って頑張ってください。

好きなものから食べる人は、必ず「今最高のものを食べている」と考え、嫌いなものから食べる人は、必ず「次はもっといいものを食べられる」と考えてください。くれぐれも「次は今より悪くなる」とか「今最悪だ」と考えないでください。同じことをしていても考え方次第です。

入学生もサポータも府大でいい学びをしてほしいと願っていますし、いい学びができると確信しています。

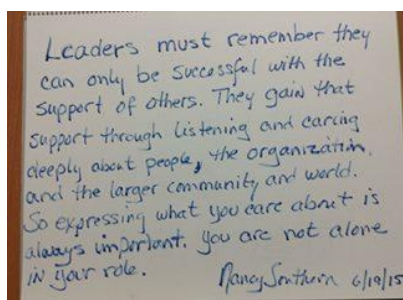


#### 6月20日

"You are not alone in your role". This message encourages me when I had much stress last year. Yes, Prof. Nancy Southern who comes to teach leadership for SiMS students gave me this message. BTW, the photo was taken in OPU campus. Can you identify where it is?

今年もナンシーが来てくれた。リーディング大学院等で講義をするために。もう4回目ではないかと思う。

彼女のくれたメッセージの話はいろいろなところでしている



のだが、昨年、参っていたことがあったときに、「何かメッセージを欲しい」とお願いしたら、少し考えたのち、言葉を選ぶようにペンを動かして書いてくれた。そのとき肩の荷がすっと軽くなったことを忘れられない。今年にはキャンパスで一枚記念写真を撮った。海外の広い公園のように見えるのは私だけだろうか。



6月21日 "Campus guide 2017" is now ready.

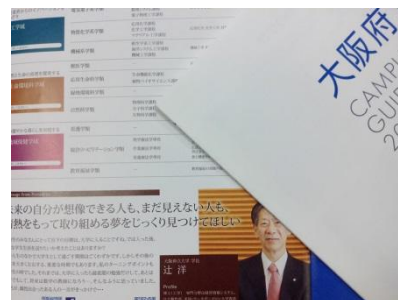
新しいキャンパスガイドが刷り上がった。私のメッセージもある。

----- (ここから) -----

未来の自分が想像できる人も、まだ見えない人も、情熱をもって  
取り組める夢をじっくり見つけてほしい。

受験生のみなさんにとって目下の目標は、大学に入ることです  
ね。では入った後、どんな学生生活を送りたいか考えたことはあ  
りますか？

長い人生のなかで大学生として過ごす期間はごくわずかです。しかしその後の人生を大きく左右  
する、重要な時期でもあります。私のターニングポイントも大学生の時でした。それまでは、大学  
に入ったら最低限の勉強だけして、あとは旅行でもして、将来は数学の教師になろう…、そんなふ  
うに思っていました。ところが、偶然出会ったある人の一言がきっかけで……



6月22日

企業に勤務していた若いころ（ワープロを一般的に使  
えないころ）、出張報告には

会議の目的

参加者、場所と時間

議事概要 (場合により議事詳細=付録)

結論 (宿題と次回 (今後) の予定)

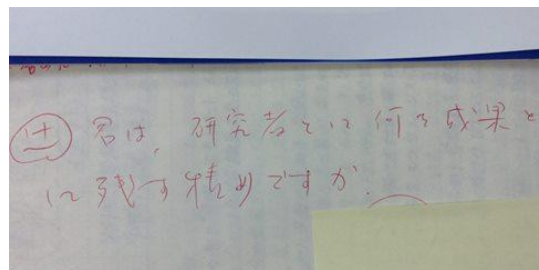
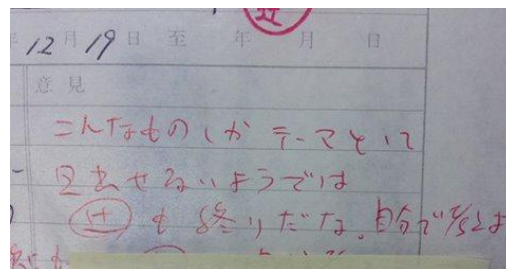
感想・意見

を (自分の頭の整理のためにも) A4一枚にまとめて  
書くように何度も (かつ厳しく) 指導を受けた。(手  
書きなのに) 書き直しも何度かされた。報告の中に、  
自分がいいたい事を伝えたり、やりたいことを含めこんだりしておくの  
がいいように学んだ。

回覧中に、上司が (手書きで) コメントを朱書する。中には手厳しくて泣き  
そうになるコメントもあった (写真)。言われていることがわからなかつた  
ことも多かった。

今でいうハラスメントのようなコメントも少なくなかった。だが、なぜか  
……、なぜかそれらを大切に今でも持っている。厚さにして2センチ、件数  
にして200件ぐらいあるのではないかと  
思う。30年ぐらい前の記録をときどき取り出して思い出している。学生  
指導の時に見せて話をしたこともある。愛の鞭 (むち) とイジメは紙一重  
(かみひとえ) なのかもしれないし、受け取り者の  
マインド次第なのかもしれない。

言われるうちが花だった (伸びしろがあった)。今ではそう思う。そ  
ういうものなんだろう。



6月23日 2016年のホームカミングデー

19日に今年度第一回の校友会理事会・評議員会があった。理事会に12名、評議員会に49名  
の方が (全国から) I-site なんばに集まってくれた。大学を支援してくださり、ありがたいことだ。



役員の交代や入会状況、収支決算や事業計画が議題に上がった。その中で、11月6日（白鷺祭期間）に開催する予定の「校友会の集い」について議論があった。2010年から大学と共催でホームカミングデーを開催してきたが、今年度はUホールが耐震工事のため、講演会や音楽演奏などに利用できず、また、毎年続けて行ったためか参加者も減ってきたことがあり、今年は校友会単独で「校友会の集い」という名称でウェルカムパーティにする予定であった。しかし、当日の評議員会で、（事前に聞こえてはいたが）

(1) 名称として「ホームカミングデー」が定着している、  
(2) 講演会などのないパーティだけでも「ホームカミングデー」として扱うべきだ、  
という意見があり、回答を求められた。（事前に学内で意見集約もしていたので）今年もホームカミングデーとして開催することになった。

- ・11月6日（日）12時～14時
- ・中百舌鳥キャンパス 生協食堂 立食形式の昼食会
- ・飲食費（3000円程度を予定）
- ・原則、案内は校友会サイトとメール

上記事情により、物足りなさがあるかもしれないが、大学祭には、いろいろなイベントもあるので、一人でも多くの先輩方に協力していただき、そして参加して頂きたいと思う。

注) 校友会には、学部や学科ごと（今後は学域・学類）の単位同窓会と地区別の地域同窓会があり、ある意味、メタ同窓会だ。そのため、大学統合や教育組織の再編があってもいつまでも大阪を離れても大阪府立大学の同窓会に所属できる。また、入学時に原則新生に入会してもらって終身会員だ。活発にするかどうかは会員の関心次第だが、大学がずっと支援していくのは間違いない。

6月24日 選挙権：一票は影響を与えないか？白票はどうか？

イギリスでEUROを離脱するかどうかの住民投票があった。関心をもった府大生も多いのではないと思う。学内にも18歳以上に選挙権があることを示して投票を誘う垂れ幕が出ている。見た学生も多いのではないと思う。

何万人もが投票するときに「自分が行こうか行くまいが結果には影響はない」と思いがちだ。確かにそういう側面はある。だけど、若い人特に今回新たに選挙権を得た学生には「権利を行使すべきだ」という問題意識を持ってほしい。

例えば、昨年行われた大阪都構想に関する住民票の結果をみてみよう。賛成 695万票、反対 706万票、棄権 695万票

反対が賛成より11万票も多いとみてしまうと「自分がいってもいかなくても変わらない」ということになるが、これを例えば201人（少し大きい教室の定員だろうか？）が投票権をもったとみてみると、賛成70人、反対71人 棄権70人の比率だ。反対の人が

一人棄権すれば同点、二人棄権すれば逆転、棄権の人が一人賛成していれば同点、二人賛成していれば逆転なのだ。比率でみると、如何に僅差かがイメージできると思う。上記の差はその積み上げだ。



橋本前市長は、「白票でも入れるべきだ。候補者はその白票は次回に自分の票になるか相手の票になるかを気にして政治に取り組む。棄権だとそういうプレッシャーにはならない」と言われていた。うまい表現だと思う。

#### 6月25日 ビジネスアイデアコンテストへの誘い

ビジネスアイデアで大成功した Google。この Google の副社長のお話を聞いてみませんか？日本語でしかも中百舌鳥キャンパスで聞くことができます。「目から鱗（うろこ）が落ちる」という諺を知っていますか。きっと、そんな経験ができると思います。

6月30日、サイエンスホールにて。もちろん無料。タイトルは「グローバル時代を生き抜く」。話を聞いて、ビジネスアイデアコンテストに応募しよう。

多くの参加者があれば、このような企画が続きます。国も府大を支援してくれます。大学の後援会も先輩も応援してくれます。少しでも多くの参加者があることを期待しています。



**ビジネスアイデアコンテスト エントリー説明会** 参加無料 応募要あり

君のアイデアで世界を変えよう！  
来る白鷺杯でビジネスアイデアコンテストを開催します。  
こんな大きな学生祭は他にない。盛り上がる。参加にぜひ参加。  
素晴らしいアイデアを賞で発表しませんか？  
グランプリを目指して奮闘してください。  
まずは説明会にお気軽にご参加ください。

グランプリ 授賞者賞(1件) 10万円  
優秀賞(4件) 5万円

2016年 6月30日(木) 説明会：16:15-16:35  
特別講義：16:35-17:45

会場：大府立大学 中百舌鳥キャンパス  
サイエンスホール

対象者：本学学生(年齢性別なし、教職員、卒業生) 参加費 無料

特別講師「グローバル時代を生き抜く」  
村上 憲郎氏 コンサート・株式会社社長  
株式会社オリス 代表取締役社長  
株式会社エクス 代表取締役社長  
大府立大学 客員教授、経済学 博士  
「Fledge」創設者 株式会社 Fledge 代表取締役

当日参加も可能ですが、事前申し込みにご協力ください！  
お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。  
お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。

お問い合わせ：大府立大学 学生課 077-272-2632 (7時～17時)

大府立大学 Fledge+

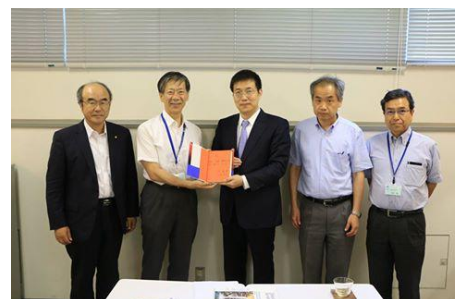
#### 6月26日 首都大戦応援の誘い

今週末は体育会の首都大戦がある。今年は府大で行う。私も開会式閉会式はもろんでできるだけ応援に顔を出そうと思う（もし、見かけたら気軽に声をかけてほしい）。昨年初めて応援について（ちょっとしたことかもしれないが）二つ気になったことがある。

一つは開会式で学生歌を斉唱するが、思いのほか、体育会所属の学生ですら多くの学生が学生歌を知らないということだ。斉唱するなら皆で歌ってほしいし、しないならやめたほうが（やめても）いいと思う。ちょっとした準備をするだけだと思っただけなのだがどうだろう。

もう一つは自分が所属するクラブの試合を終えると（首都大の皆さんと懇親会に向かうのかもしれないが）ほかのクラブの試合の応援にまわらないことだ。そのため、応援団とクラブの先輩と思われる方とわずかの学生しか応援をしていない。これでは対抗戦とはいえず。個別に試合をして、年度末に集計をすればいいと思う。一種目でも二種目でも応援に行ったらどうかと思うのだがどうだろう。

この感想のことは昨年の大会が終えた時に伝えている。体育会の役員が交代の挨拶にきてくれたときにも伝えている。今年がどうなっているか。昨年と同じか。こういうスタイルが昔からの習わしで、そもそも私が気になるのがおかしいのか。



#### 6月27日

23日関西経済論に府大のOBでデロイトトーマツの執行役員としてご活躍の周磊さんをお招きして講演をお願いした。周さんは中国ご出身で至誠寮で日本の習慣（しきたり？）という文化を理解し、今は国はじめ多くの自動車メーカーやITメーカーのトップコンサルティングをされている。当日はサイン入りの著作や海外のお土産も頂いた。

周さんは言われる：

・・・、大学が地域のエコシステムの一員として、産業や地域コミュニティと積極的に関与されることは、地域からの期待でもあるかと思しますので、地域からの期待に応える意味でも、重要であろうかと存じます。また、海外の大学等、国際的な視野での連携は、どの主体にも出来ることではなく、この点での大学の貢献は、他で代替出来ない重要なものになるかと思っております。府大の世界に向けた発信、グローバルネットワーク作りには、小生も貢献出来ることが多いかと存じますので、何かお役に立てることがございましたら、いつでもご連絡・・・。

私が在任中にやりたいことのひとつが同窓会を超えたOBとのネットワークづくり。現在課題をみつけ、システム思考で問題解決する能力を育むためには学内の教員だけでなく、多様な経験を持つ方のお力を借りたいと思う。起業した卒業生、海外にいる卒業生、府大留学OB、・・・、学生が喜ばば、Greater OPUとして応援団は多数いる。そう確信している。一步ずつ、そして一步ずつ。

#### 6月28日 地域とつながる国際交流～海外とつながる地域連携

白鷺駅の近くにお住まいで、S-CUBEでベンチャーをやっているサファ・ローランさん（フランス出身）が訪問してくれた。

サファさんは大手家電メーカーでソフト関係の仕事を長年されたのち、商品推薦システムのベンチャーをされ、その後、IoT (internet of Things) の会社 (Alldonet) を立ち上げられた。私は商品推薦システム

のことをされているところからの付き合い（府大で非常勤講師もしていただいたり、インターンシップの受け入れをしていただいたりしてきた）だが、ここ数年は、お会いしていなかった。ようやくご自身の Cloud Services に顧客がつき、ついに大きく翔く段階になったそうだ。「面白い」「面白い」を連発されており、元気を頂いた気がする。

在日フランス商工会議所大阪地区アンバサダーにも就任され、同商工会議所と府大の連携の議論もした。府大のセンサー系の研究とサファさんのサービスとの連携の相談もした。

地域とつながる国際交流～海外とつながる地域連携・・・こういう活動を（府大の国際交流の特徴として）活発化していきたいと思う。



#### 6月29日 首都大戦迫る

1日（金）11時から開会式だ。その中で、首都大理事長の川淵三郎Jリーグキャプテンと一緒に東京オリンピック・パラリンピック競技を披露することになった。そう、ボッチャだ。府大関係者はボッチャについて知っておいてほしいし、宣伝してほしい。

開会式後は、13時30分からエキジビジョンマッチ。今年は体育館にて男子バレーボール。中学高校時代バレーボールをしていて近畿大会まで行ったが、当時とルールはだいぶ変わってしまった（山本章雄先生のチームにぼろ負けした）。経験者とはばれないように見学するつもりだ。

2日の夜、臨海スポーツセンターでアイスホッケーがあり、家族で応援に行こうかと思っている。終了が23時になるということだが盛り上がるのは間違いない。これら以外にも高野山で自動車、金剛山でサイクリング。ゴルフは京都、漕艇は高石、陸上は奈良。これらには応援に行けないが頑張してほしい。準備をして下さっている皆様に感謝と敬意を表したい。



## 6月30日 MRJ のチーフエンジニア

国産初のジェット機 MRJ が、昨年試験飛行に成功した。その前の国産機（プロペラ機 YS 11）にちなんだのか11月11日。そのチーフエンジニアの岸信夫副社長は府大の出身だ。その縁もあり、関西経済論で講演頂いた。

MRJ とは Mitsubishi Regional Jet で70人ー90人程度の乗客を短距離運ぶものだ。（大量輸送で長距離がターゲットの）ボーイング社やエアバス社のマーケットとは違う。細長い胴体、背が高いのが特徴だ。岸さんは言う。「やりたいことをもつことが大切だ。専門知識もだが、英語、国語、数学など基礎が大切だ。技術だけでなく、いろいろな知識がいる。府大 OB は皆優秀で活躍している」

初飛行の時の動画を紹介いただいた。長年のご苦勞、多くの人の協力、きっと何回も挫折しそうになっただろうということがすぐわかり感動する（涙腺が緩む）。これは私だけではなかっただろう。

近い将来、2日に1機製造するだけの受注があるそうだ。そのペースで部品を調達するのは大変だ。安全検査も大変だ。製造場所の確保も大変だ。だけど成功してほしい。府大 OB がこういう場で先頭にたって活躍されていることを誇りに思う。

